

4歳児

一緒にやってみよう！おもしろくなるよ

1 発達の特徴

【全身のバランス】

4歳を過ぎる頃から、しっかりとした足取りで歩くようになるとともに、全身のバランスを取る能力が発達し、片足跳びやスキップをするなど、体の動きが巧みになってくる。活動的になり、全身を使いながら様々な遊具や遊びなどに挑戦して遊ぶなど、運動量も増してくる。手先も器用になり、ひもを通したり結んだり、はさみを扱ったりできるようになる。また、遊びながら声を掛けるなど、異なる2つの動作を同時に行えるようになる。

【身近な環境への関わり】

身近な自然環境に興味を示し、積極的に関わろうとする。砂山や泥ダンゴ作りに夢中になったり、花を摘んだり、木の実を拾ったり、虫を捕ったりと、自分の手足を使い、感覚を総動員して見たり触れたりしながら、物や動植物の特性を知り、より豊かな関わり方や遊び方を体得していく。こうした自然や物との関わりの中で、身体感覚を養い、想像の世界を広げていくことは、子どもの心に安定や喜びをもたらす。

【想像力の広がり】

想像力の広がりにより、実際に体験したことと、絵本など想像の世界で見聞きしたことを重ね合わせたり、イメージを膨らませ、物語を自分なりに作ったり、世界の不思議さやおもしろさを味わったりしながら遊びを発展させていく。また、様々なイメージを広げ、友達と想像の世界の中でごっこ遊びに没頭して遊ぶことを楽しむ。

【葛藤の経験】

自分と他人の区別がはっきり分かり、自我が形成されていくと、自分以外の人をじっくり見るようになり、同時に見られる自分に気付くといった自意識をもつようになる。自分の気持ちを通そうとする思いと、時には自分の思った通りにいかないという、不安やつらさといった葛藤を経験する。このような気持ちを周りの大人に共感してもらったり、励まされたりすることを繰り返しながら、友達や身近な人の気持ちを理解していく。

【自己主張と他者の受容】

子ども同士の遊びが豊かに展開していくと、子どもは仲間といることの喜びや楽しさをより感じるようになり、仲間とのつながりが深まってくる。同時に競争心も生まれけんかも多くなる。自己主張をぶつけ合い、悔しい思いを経験しながら、相手の主張を受け入れたり、自分の主張を受け入れてもらったりする経験を積み重ねていく。

自己を十分に発揮することと、他者と強調して生活していくという、人が生きていく上で大切なことをこの時期に学ぶ。

主張をぶつけ合い、やり取りを重ねる中で互いに合意していくという経験は、子どもの社会性を育てるとともに、子どもの自己肯定感や他者を受容する感情を育てていく。

(「保育所保育指針解説書」参照)

2 経験させたい保育内容

<健康・生活>

- ・喜んでいろいろな活動に取り組み、日常生活に必要な習慣や態度を身に付ける。
- ・戸外で十分に体を動かして遊ぶ楽しさを味わう。
- ・身近な社会や自然の事象や季節の変化に興味や関心をもつ。
- ・身近な自然に触れ、見たり楽しんだり、生活に取り入れたりする。
- ・自分の健康に関心をもち、様々な食物を進んで食べる。

<人との関わり>

- ・友達に自分の気持ちを言葉で表現したり、友達の気持ちに気付いたりする。
- ・簡単なルールを作り、友達と一緒に遊びを楽しむ。
- ・役になりきって友達と一緒にごっこ遊びを楽しむ。
- ・異年齢の幼児と関わって遊ぶことで、世話をしようとする気持ちや憧れの気持ちをもつ。

<学びの芽生え>

- ・新しい活動にも進んで取り組み、友達と一緒に試したり工夫したりしながら遊びを進める楽しさを味わう。
- ・ストーリーのある絵本や物語の内容を理解し楽しむ。
- ・自然の事象や生き物に興味や関心をもち、集めたり、触ったりすることを楽しむ。
- ・園生活の中で、数量や図形、文字などに関心をもつ。
- ・当番活動の引き継ぎなどの年長組との関わりを通して、進級することへの期待をもつ。

3 家庭との連携

○子どもの健康な生活について伝え、理解を得る

- ・幼児期は子どもの自律神経が育つ大事な時期であることを踏まえ、睡眠、食事等、生活リズムの大切さを伝える。(早寝・早起き・朝ごはん)
- ・子どもが自信をもって園生活を送れるように、着替え、歯磨き、片付けなどを子どもが自分から行えるようにすることの大切さを伝える。
- ・子どもにとって大人に絵本を読み聞かせしてもらおうこと大切さを伝える。また、絵本の貸し出しを通して、親子で絵本に触れる機会を作る。

○保育内容を知らせ、理解を得るとともに保護者同士の関わりを支援する

- ・子ども同士の関わりが増え、葛藤体験を通して大きく成長していく4歳児について理解を得るために、園便りやクラス便り等で、保育中のエピソードを交えて具体的に伝える。
- ・保護者同士が十分に知り合い、共にクラスの子どもの成長を見守っていかれるように、保護者会の際、エンカウンターや小グループでの話し合いの場を設けるなど、つながりができるよう支援する。
- ・保護者が我が子と他児の関わりを安心して見守ることができるよう、友達との関わりの中で育つ成長の芽を具体的に伝える。

4歳児 I 期（4月～5月）

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○新しい担任や保育室に親しみ、友達や保育者と一緒に遊ぶ楽しさを感じる。 ○身近な自然の変化に気付き、不思議に思ったり、興味をもったりする。 ○新しい場で生活の仕方が分かり、できることは自分でしようとする。 						
経験する内容	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">健康・生活</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・散歩先や園庭で身近な遊具や用具を使い、伸び伸びと体を動かして遊ぶ。 ・生活の決まりや約束を知り、守って楽しく遊ぶ。 ・食事の準備や片付けの仕方を知り、自分でできるようにする。 ・衣服の着脱や始末、腕まくりを自分で行おうとする。 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">人との関わり</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活に必要な挨拶をする。 ・保育者に親しみをもち、関わって遊ぶ。 ・してほしいことや困ったことなどを保育者に伝えようとする。 ・自分の好きな遊びを見つけ、保育者や友達と一緒に遊ぶことを楽しむ。 ・友達と同じことをしたり触れ合ったりして遊ぶ。 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">学びの芽生え</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・春の自然に親しみ、季節の変化を感じたり、心地よさを感じたりする。 ・動植物の世話をしながら親しみをもつ。 ・歌を歌ったり、体を動かしたりして楽しむ。 ・絵本や童話を見たり聞いたりして楽しむ。 ・落ち着いて集まりに参加し、保育者の話に興味をもつ。 </td> </tr> </table>	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ・散歩先や園庭で身近な遊具や用具を使い、伸び伸びと体を動かして遊ぶ。 ・生活の決まりや約束を知り、守って楽しく遊ぶ。 ・食事の準備や片付けの仕方を知り、自分でできるようにする。 ・衣服の着脱や始末、腕まくりを自分で行おうとする。 	人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活に必要な挨拶をする。 ・保育者に親しみをもち、関わって遊ぶ。 ・してほしいことや困ったことなどを保育者に伝えようとする。 ・自分の好きな遊びを見つけ、保育者や友達と一緒に遊ぶことを楽しむ。 ・友達と同じことをしたり触れ合ったりして遊ぶ。 	学びの芽生え	<ul style="list-style-type: none"> ・春の自然に親しみ、季節の変化を感じたり、心地よさを感じたりする。 ・動植物の世話をしながら親しみをもつ。 ・歌を歌ったり、体を動かしたりして楽しむ。 ・絵本や童話を見たり聞いたりして楽しむ。 ・落ち着いて集まりに参加し、保育者の話に興味をもつ。
健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ・散歩先や園庭で身近な遊具や用具を使い、伸び伸びと体を動かして遊ぶ。 ・生活の決まりや約束を知り、守って楽しく遊ぶ。 ・食事の準備や片付けの仕方を知り、自分でできるようにする。 ・衣服の着脱や始末、腕まくりを自分で行おうとする。 						
人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活に必要な挨拶をする。 ・保育者に親しみをもち、関わって遊ぶ。 ・してほしいことや困ったことなどを保育者に伝えようとする。 ・自分の好きな遊びを見つけ、保育者や友達と一緒に遊ぶことを楽しむ。 ・友達と同じことをしたり触れ合ったりして遊ぶ。 						
学びの芽生え	<ul style="list-style-type: none"> ・春の自然に親しみ、季節の変化を感じたり、心地よさを感じたりする。 ・動植物の世話をしながら親しみをもつ。 ・歌を歌ったり、体を動かしたりして楽しむ。 ・絵本や童話を見たり聞いたりして楽しむ。 ・落ち着いて集まりに参加し、保育者の話に興味をもつ。 						
環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ○靴箱やロッカー・引き出しなどに個人の名前とマークで表示を付けることにより、入園・進級した喜びを感じられるようにする。 ○入園・進級当初は家庭や3歳児クラスでの遊びを抛り所にできるよう、今までに親しんだ遊具も準備する。 ○子どもの様子を見ながら、新しい遊具を出していく。 ○遊びの場を子どもと一緒に作れるように、場づくりに必要な衝立などを準備しておく。 ○身近な動植物と関わり心の安定が図れるよう、見たり餌を与えたりできる環境を整える。 						
保育者の援助	<ul style="list-style-type: none"> ○一人一人の子どもを温かい笑顔で受け入れ、安心して生活できるようにする。 ○保育者から声を掛けたりスキンシップを心掛けたりすることで、子どもが親しみを感じ安心して過ごせるようにする。 ○遊びや生活の仕方を分かりやすく伝え、皆ですることや遊ぶことの楽しさを感じることができるようになる。 ○一人一人のありのままの姿を受け止め、子どもが安心して自分を表現できるようにする。 						
遊び教材 絵本	<ul style="list-style-type: none"> ○3歳児のクラスや家庭で楽しんでいた遊び（ままごと、ブロック、粘土、絵描き、砂場） ○友達と一緒に体を動かす遊び（園庭での追い掛けごっこ、固定遊具での遊びなど） ○春の自然物に触れたり、見たりする遊び（草花摘み、虫探しなど） 「はらぺこあおむし」「だいすきひゃっかい」「きよだいなきよだいな」「たんぼぼ」 「そらいろのたね」「ぐるんぱのようちえん」「こびとのくつや」「はっぱのおうち」 「10ぴきのかえるのびくにつく」「ふうせんくまくん」「でんしゃでいこう」 「ねずみくんのえんそく もぐらくんのえんそく」「ぐりとぐら」 						
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもの様子を丁寧に伝え、保護者が安心できるようにする。 ○緊急時の連絡方法・避難場所・登降園時の交通安全について説明し、協力を依頼する。 ○面談・行事・園便りなどを通して子どもの園生活の様子を知らせ、保護者と信頼関係を築いていけるようにする。 						

友達や先生と新しい生活のスタート！

友達や先生と一緒に種や苗を植える（4月）

ねらい：友達や先生と一緒に苗や種を植え、生長を楽しみにする。

朝、保育室にミニトマトとオクラの苗、オシロイバナとミニヒマワリの種を用意しておく。登園した子どもたちは、興味をもって見たり触ったりしながら、何の種なのか想像を膨らませる。保育者も一緒に会話を楽しみながら、皆が集まるのを待ち、子どもと一緒に種や苗に名前を考えて付ける。その後自分が植えたい種や苗を選び、同じものを選んだ友達と一緒に植える。

【★環境構成・〇保育者の援助】

- ★プランターを子どもが見たり世話をしたりしやすい位置に配置する。
- 〇苗や種を見ながら、会話を楽しむことで、どんな花が咲き、どこに実がなるかなど、生長が楽しみになるようにする。
- 〇苗や種に名前を付けることで、より身近に感じられるようにする。

経験している内容

- ◆♥新しい環境の中で友達や保育者と一緒に楽しく活動し、安定して過ごす。
- ♥自分の思うことや分からないことを保育者に言葉や表情で伝えようとする。



♥人との関わり ◆健康・生活 ●学びの芽生え

- 種や苗に親しみをもち、生長を予想し、楽しむにする。
- 種や苗の植え方を聞き、自分なりにやってみる。
- 水やりが必要なことを知り、自分からやろうとする。

泥遊びを思い切り楽しもう！（5月）

ねらい：泥に触れながら感触を楽しんだり、工夫して製作したりする。

子どもたちが、泥と十分に関わって遊ぶ経験ができるよう、園庭に粘土質の荒木田土を入れた。子どもたちは、丸めたり水と混ぜてこねたり、裸足になって歩いたり、型抜きをしたりと、砂とは違う感触を楽しむ。友達や保育者と泥んこの手で握手して笑い合う姿も見られる。次の日、乾いて硬くなったことに気が付き、友達や保育者に伝える様子も見られる。

【★環境構成・〇保育者の援助】

- ★園庭の砂とできるだけ混じらない場所に荒木田土を用意する。
- 〇子どもの感じていることに共感し、保育者も一緒に遊びながら楽しい気持ちを共有する。
- 〇道具の片付け方や、遊んだ後の汚れの落とし方、着替えについて丁寧に指導する。

経験している内容



◆健康・生活 ♥人との関わり ●学びの芽生え

- ◆落ちにくい泥を丁寧に洗って道具を片付ける。
- ◆手足をこすって泥をしっかりと落としたり、衣服を着替えたりして清潔に保つ。

- ♥友達に思うことを言ったり、友達のしていることをまねたりして遊ぶ。
- ♥楽しさを共感し合う。

- 泥の感触を十分に味わう。
- 水の量によって硬さや粘りが変わること気付く。
- もっとやりたい、明日も続きをしようという意欲や期待をもつ。

4歳児Ⅱ期（6月～8月）

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○戸外で十分に体を動かして遊ぶ楽しさを感じる。 ○身近な自然に触れ、季節の変化に気付いたり、自然物を取り入れて遊んだりすることを楽しむ。 ○思ったこと考えたことを、言葉や様々な方法で表現しようとする。 	
経験する内容	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ・園での生活習慣や約束を再確認し、守ろうとする。 ・汗の始末、着替え、水分補給などの生活に必要なことを身に付ける。 ・プール遊びや様々な水遊びを楽しむ中で水に親しむ。 ・安全に水遊びを楽しむための約束ごとを知る。 ・のりやセロテープやハサミなどの使い方を再確認し、自由に使う。
	人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達と一緒に体を動かして遊ぶことを楽しむ。 ・簡単なルールのある遊びを保育者や友達と楽しむ。 ・友達との関わりの中で、言葉で思いを伝えようとする。 ・共同のものを大切にし、譲り合う気持ちをもつ。 ・保育者の話に興味をもち、最後まで聞こうとする。
	学びの芽生え	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な自然に触れ、興味、関心をもつ。 ・絵本に興味、親しみをもつ。 ・遊びに必要な物を自分なりに考えたり、工夫したりして作って遊ぶ。 ・友達と一緒に歌ったり、リズムに合わせて踊ったりして、表現することを楽しむ。
環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の当番の順番を待ち、楽しみにできるように、当番表や当番カードを準備し、自分から活動に取り組めるようにする。 ○子ども同士が集まって遊べるような場を設定したり、材料を用意したりして、友達と関わる楽しさを感じられるようにする。 ○水遊びやプール遊びをより楽しめるように、遊具を準備する。 ○興味をもっている動植物の図鑑や虫かご、餌などを用意する。世話をする中で必要なものを一緒に考えたり、扱い方を知らせ、命の尊さを伝えていく。 	
保育者の援助	<ul style="list-style-type: none"> ○遊びに入れない子どもや、思いがうまく伝えられずトラブルになる子どもの思いを十分に受け止めて、友達との仲立ちをする。 ○友達と一緒に活動に取り組む楽しさが感じられるよう、一人一人の取り組みの様子を認めたり、周りの子どもの動きを知らせたりする。 ○手洗い・うがい・衣服の調節などの必要性に子どもが自分で気付けるように声を掛けるとともに、体を清潔に保つ気持ちよさが分かるように話をする。 ○熱中症や水分補給について伝え、子どもが自分の健康に関心をもてるようにする。 ○話を聞く楽しさを感じられるよう、一人一人に視線を向け、笑顔で接するようにする。 	
遊び教材 絵本	<ul style="list-style-type: none"> ○簡単なルールのある遊び（島鬼、引越し鬼、おおかみさん今何時？など） ○水遊びやプール遊び（プリンなどの空き容器、牛乳パックを使った遊び、色水遊びなど） 「おばけのバーバパパ」「おばあちゃんのえんがわ」「てんぐちゃんとだいこくちゃん」 「はじめてのおつかい」「なわとびしましょ」「しずくのぼうけん」「ちいさいおうち」 「わにさんどきっ はいしゃさんどきっ」「10ぴきのかえるのたなばたまつり」 	
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○子ども同士のトラブルは、発達の中で通る姿であるとともに、成長の機会であることを知らせ、理解を求めていく。同時に、何かあったときには保護者の心配を受け止めて、細やかに状況を説明する。 ○登園時の健康観察や保護者との会話で、子どもの体調について互いに把握し、健康管理に努めていく。 ○長期間、休む子どもも多いため、規則正しい過ごし方や安全について、手紙など配布し意識できるようにする。 	

友達と一緒に遊ぶ

鬼ごっこ大好き！（6月）

ねらい：保育者や友達と、簡単なルールのある鬼遊びを楽しむ。

新しいクラスの中で、それぞれの子どもが自分なりの居場所を見付けて、好きな遊びに取り組むようになってきた。そこで、友達との関わりを楽しめるよう、簡単なルールの島鬼をクラス全体で行う。その後は、子どもたちの大好きな遊びとなり、クラスの誰とでも一緒に、毎日繰り返し取り組んでいる。

【★環境構成・○保育者の援助】

- ★広い場所が必要なので、遊びの場を調整し危険がないよう物の整理をしておく。
- 保育者も遊びに入りながら楽しさを共有したり、トラブルの仲立ちをしたりする。
- 遊びの様子を他の子どもにも伝え、興味をもてるようにする。

経験している内容

◆健康・生活 ♥人との関わり ●学びの芽生え

- ◆相手の動きに応じて走ったり止まったり、かわしたり方向を変えたりなど、体を様々に動かす。



- ♥友達を誘ったり、自分から仲間に入ったりする。

- 鬼遊びのルールを知り、守って遊ぶと楽しいことが分かる。
- 追いかけてたり追いかけられたりする楽しさを感じる。

身近な生き物に親しむ（6月）

ねらい：友達と一緒に身近な自然と触れ合って遊ぶ。

園庭でカタツムリやカエル、ダンゴムシやコガネムシの幼虫など、様々な生き物が見られるようになった。そこで、虫かごや飼育ケース、虫眼鏡など用意したところ、虫探しに関心をもつ子どもが増えた。友達と石や植木鉢の下、木の陰など生き物のいそうなところを夢中になって探したり、見つけたものを見せ合ったり、飼い方を図鑑で調べたりしている。

【★環境構成・○保育者の援助】

- ★保育室に、虫かご、虫眼鏡、図鑑、ポケット図鑑などを置き、子どもが自由に使ったり、調べたりできるようにする。
- 子どもの見ているもの、感じていること、発見したことを受け止めたり、クラス全体に紹介したりすることで、興味が広がっていくようにする。
- 生き物の扱いや飼育について考えながら、生命の大切さが感じられるようにしていく。

経験している内容

◆健康・生活 ♥人との関わり ●学びの芽生え



- ◆戸外で自然と関わって遊ぶ。

- ♥友達と見せ合ったり、虫のいる場所を教え合ったり気付いたことを伝え合ったりする。

- 生き物のいそうな場所を憶測して探す。
- 小さな生き物をよく見る。
- 手のひらに生き物の動きを感じたり、そっとつかんだりする。
- 飼い方について、友達や保育者と調べる中で、生き物との関わり方について考える。

4歳児 Ⅲ 期（9月～10月）

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な運動遊びに取り組み、思い切り体を動かす楽しさを味わう。 ○身近な秋の自然に触れたり、遊びに取り入れたりすることを楽しむ。 ○友達と関わる中で、自分の思いを言葉や動きで表現しようとする。 						
経験する内容	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">健康・生活</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・全力で走ったり、体を動かしたりする心地よさを感じる。 ・戸外で友達と一緒にいろいろな遊びを楽しむ。 ・遊びの決まりやルールを守って遊ぶ。 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">人との関わり</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・友達に自分の気持ちや思いを伝えようとしたり、相手にも気持ちや思いがあることに気付いたりする。 ・友達や保育者と共に音楽に親しみ、身体を動かしたり楽器を鳴らしたりして楽しむ。 ・みんなで一緒に活動する中で、クラスの一員として行動することを楽しむとともに、クラスのつながりを感じる。 ・異年齢児と関わり、一緒に活動したり遊んだりする。 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">学びの芽生え</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本に親しみ、興味をもって聞き、想像する楽しさを味わう。 ・いろいろなものに興味をもち、やりたい遊びを自分で見付けて取り組もうとする。 ・季節の移り変わりを感じ、秋ならではの様々な自然に興味をもち、遊びに取り入れて遊ぶ。 ・歌や曲に合わせて楽器を使ったり自由に動いたりする。 </td> </tr> </table>	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ・全力で走ったり、体を動かしたりする心地よさを感じる。 ・戸外で友達と一緒にいろいろな遊びを楽しむ。 ・遊びの決まりやルールを守って遊ぶ。 	人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・友達に自分の気持ちや思いを伝えようとしたり、相手にも気持ちや思いがあることに気付いたりする。 ・友達や保育者と共に音楽に親しみ、身体を動かしたり楽器を鳴らしたりして楽しむ。 ・みんなで一緒に活動する中で、クラスの一員として行動することを楽しむとともに、クラスのつながりを感じる。 ・異年齢児と関わり、一緒に活動したり遊んだりする。 	学びの芽生え	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本に親しみ、興味をもって聞き、想像する楽しさを味わう。 ・いろいろなものに興味をもち、やりたい遊びを自分で見付けて取り組もうとする。 ・季節の移り変わりを感じ、秋ならではの様々な自然に興味をもち、遊びに取り入れて遊ぶ。 ・歌や曲に合わせて楽器を使ったり自由に動いたりする。
健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ・全力で走ったり、体を動かしたりする心地よさを感じる。 ・戸外で友達と一緒にいろいろな遊びを楽しむ。 ・遊びの決まりやルールを守って遊ぶ。 						
人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・友達に自分の気持ちや思いを伝えようとしたり、相手にも気持ちや思いがあることに気付いたりする。 ・友達や保育者と共に音楽に親しみ、身体を動かしたり楽器を鳴らしたりして楽しむ。 ・みんなで一緒に活動する中で、クラスの一員として行動することを楽しむとともに、クラスのつながりを感じる。 ・異年齢児と関わり、一緒に活動したり遊んだりする。 						
学びの芽生え	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本に親しみ、興味をもって聞き、想像する楽しさを味わう。 ・いろいろなものに興味をもち、やりたい遊びを自分で見付けて取り組もうとする。 ・季節の移り変わりを感じ、秋ならではの様々な自然に興味をもち、遊びに取り入れて遊ぶ。 ・歌や曲に合わせて楽器を使ったり自由に動いたりする。 						
環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ○身体を動かして遊びたくなるように、いろいろな遊具を用意する。 ○自然の落ち葉や枯れ葉を遊びの中に取り入れ、集めたり工夫したりして遊べるように袋やカップなどを子どもがすぐ使える場所に用意する。 ○秋に収穫される自然の恵みに触れたり感じたりできるように掲示する。 ○運動会で5歳児が取り組んだリズムやリレー、運動遊びができるように材料や場を準備したり、5歳児に教えてもらったりできるようにする。 						
保育者の援助	<ul style="list-style-type: none"> ○不安を抱いている子どもに対しては気持ちを受け止めたり、頑張りを認めたりしながら、そのことを友達にも伝えていく。 ○自分の思っていることを伝えられない子どもには、保育者が仲立ちし、自分の思いを出していけるようにする。また、相手の気持ちにも気付けるよう伝えたり、クラス全体に伝えたりする。 ○気候や運動量に応じて、衣服の調整や休息をとることに気付かせていく。 						
遊び教材 絵本	<ul style="list-style-type: none"> ○みんなで一緒に経験する運動遊び（かけっこ、リズム体操など） ○自然物を使った遊び（どんぐり拾い、落ち葉拾い） ○楽器を使った簡単なリズム遊び（カスタネット、鈴、タンバリン） 「たろうのひっこし」「くれよんのくろくん」「ガンピーさんのふなあそび」 「パパおつきさまとって」「おむすびころりん」「14ひきのおつきみ」 「パンプキン・ムーンシャイン」「おばあさんのスプーン」 						
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○運動量が多くなるので、早寝早起き、朝ご飯など、健康管理の大切さを伝える。 ○運動会の意味を知らせるとともに取り組みの姿勢を伝え、十分に認めるよう働き掛ける。 						

自然との関わりの中で

雨の日の砂場で（9月）

ねらい：友達と遊び方を考えたり、思ったことを伝え合ったりして、雨の日ならではの遊びを楽しむ。

今にも雨が降り出しそうな中、子どもたちは砂場で遊んでいる。予想通り、雨が降り出してきたが、屋根付きの砂場なので、そのまま遊びを続けている。雨足が強くなると、子どもたちは雨音を聞いたり、水がはねる様子を見たり、バケツに雨水をためたりし始める。友達とたまった雨水の量を比べたり、雨水がきれいなことに驚いたり、雨の日ならではの遊びを楽しむ。

【★環境構成・○保育者の援助】

- ★砂場の道具を使いやすいように種類別にコンテナに分けて置いておく。
- 雨の日ならではの遊びが十分に楽しめるよう、時間や場を保障する。
- 子どもが楽しんでいることに共感したり、友達の気付きを他の子どもにも伝えたりして、様々に試すことができるようにする。

経験している内容

◆健康・生活 ♥人との関わり ●学びの芽生え

- ◆風邪を引かないよう、濡れた髪や体を拭いたり、衣服を取り替えたりする。



- ♥友達と気付いたこと、感じたことを伝え合いながら、一緒に楽しむ。

- 見たり、聴いたり、触ったりなど、諸感覚を通して雨を感じる。
- 雨の降り方による音の違いに気付いたり、入れ物に水がたまっていく様子を楽しんだりする。

ドングリ拾い（10月）

ねらい：ドングリ拾いをしながら、手触りを感じたり、大きさや色の違いに気付いたり、拾ったもので遊んだりする。

秋の一日、荒川自然公園に園外保育に出掛け、ドングリ拾いをする機会を作る。子どもたちは、地面に顔を近づけ真剣に根気よく探している。「大きいの見付けた!」「見て、赤ちゃんドングリ」と、嬉しそうな表情で保育者に知らせたり、自分のペットボトルに入れた物を、友達と見せ合ったり、振って音を鳴らしたりしながら収穫を楽しむ。園に持ち帰り、次の日からままごとに使ったり、ころがしゲームを作ったり、製作をしたりなど、様々に楽しむ。

【★環境構成・○保育者の援助】

- ★事前の下見に行き、安全面を確認したり、ドングリのある場所を把握したりする。
- ★ペットボトルにひもを付け、体にかけるようにし、両手を使ってドングリ拾いを楽しめるようにする。
- たくさん拾って嬉しい気持ちを受け止めたり、大きさや形、色など子どもの気付きを認めたりする。
- ドングリで様々に遊べるよう、援助する。

経験している内容

◆健康・生活 ♥人との関わり ●学びの芽生え

- ◆しゃがんだ姿勢を保ったり、よく見たり、根気強く探したりする。



- ♥自分より量の少ない友達に分けたり、友達からもらったり、取り替えっこしたりする。

- 木によってドングリの大きさ・形・色が違うことに気付く。
- 見たり、触れたり、音を楽しんだりする。
- 拾ったドングリで工夫して遊んだり、製作したりする。

4歳児Ⅳ期（11月～12月）

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な遊びを通して、友達と関わりながら遊ぶ楽しさを感じる。 ○身近な自然に関心をもって関わり、自然物を取り入れて遊ぶ。 ○決まりを守りみんなと一緒に生活する楽しさを味わう。 						
経験する内容	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">健康・生活</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・戸外での遊びに進んで参加する。 ・遊びの決まりやルールを守って遊ぶ。 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">人との関わり</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と関わって遊ぶ中で、ルールの必要性に気付き、守ろうとする。 ・仲間の動きを意識しつつ、鬼遊びなどクラスのみんなで遊ぶ楽しさを感じる。 ・友達に自分の思いや考えを言葉や態度で伝えようとする。 ・友達の言葉や動きを意識し、自分とは違う思いや考えがあることを知る。 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">学びの芽生え</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が経験したことや見たことを、様々な方法で表現して遊ぶ。 ・小動物や植物の世話をすることで、命の大切さを感じる。 ・戸外で自然に触れて遊ぶ中で、季節の移り変わりに気付き、自然物を使って遊ぶことを楽しむ。 ・歌や簡単な楽器を使ってみんなで合奏する楽しさを味わう。 ・好きな絵本などのイメージを遊びに取り入れながら、友達といろいろな表現を楽しむ。 ・自分たちの遊びに必要なものを作ったりイメージしたものを作るために、材料を探したり工夫して表現したりする。 </td> </tr> </table>	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ・戸外での遊びに進んで参加する。 ・遊びの決まりやルールを守って遊ぶ。 	人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と関わって遊ぶ中で、ルールの必要性に気付き、守ろうとする。 ・仲間の動きを意識しつつ、鬼遊びなどクラスのみんなで遊ぶ楽しさを感じる。 ・友達に自分の思いや考えを言葉や態度で伝えようとする。 ・友達の言葉や動きを意識し、自分とは違う思いや考えがあることを知る。 	学びの芽生え	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が経験したことや見たことを、様々な方法で表現して遊ぶ。 ・小動物や植物の世話をすることで、命の大切さを感じる。 ・戸外で自然に触れて遊ぶ中で、季節の移り変わりに気付き、自然物を使って遊ぶことを楽しむ。 ・歌や簡単な楽器を使ってみんなで合奏する楽しさを味わう。 ・好きな絵本などのイメージを遊びに取り入れながら、友達といろいろな表現を楽しむ。 ・自分たちの遊びに必要なものを作ったりイメージしたものを作るために、材料を探したり工夫して表現したりする。
健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ・戸外での遊びに進んで参加する。 ・遊びの決まりやルールを守って遊ぶ。 						
人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と関わって遊ぶ中で、ルールの必要性に気付き、守ろうとする。 ・仲間の動きを意識しつつ、鬼遊びなどクラスのみんなで遊ぶ楽しさを感じる。 ・友達に自分の思いや考えを言葉や態度で伝えようとする。 ・友達の言葉や動きを意識し、自分とは違う思いや考えがあることを知る。 						
学びの芽生え	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が経験したことや見たことを、様々な方法で表現して遊ぶ。 ・小動物や植物の世話をすることで、命の大切さを感じる。 ・戸外で自然に触れて遊ぶ中で、季節の移り変わりに気付き、自然物を使って遊ぶことを楽しむ。 ・歌や簡単な楽器を使ってみんなで合奏する楽しさを味わう。 ・好きな絵本などのイメージを遊びに取り入れながら、友達といろいろな表現を楽しむ。 ・自分たちの遊びに必要なものを作ったりイメージしたものを作るために、材料を探したり工夫して表現したりする。 						
環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ○簡単な決まりのある遊びを仲間と楽しむ中で、一人一人が自分の思いを出して遊べるよう遊びの場を調整したり、必要な遊具や素材を準備したりする。 ○園生活の中で子どもに負担なくできることを任せ、自分でできることの範囲を広げていき自分がしたことで相手が喜んでくれたときの心地よさを味わえるようにする。 ○表現する楽しさを繰り返し楽しめるよう、必要な場所を用意する。 ○なりきって表現する楽しさが味わえるよう、お面や必要な物づくりのための教材・用具を準備する。 						
保育者の援助	<ul style="list-style-type: none"> ○子ども一人一人がしていることや工夫していることを認めたり励ましたりしながら、やり遂げた満足感を味わえるようにし、自信をもてるように援助する。 ○子ども同士が互いのよさに気付いたり、認め合ったりできるよう気付かせたり、認める言葉を掛けたりしていく。 ○自然との関わりの中で気付いたり驚いたりする様子に共感したり、自然物を遊びに取り入れて遊ぶ楽しさが味わえるようにする。 						
遊び教材絵本	<ul style="list-style-type: none"> ○思い切り体を動かす遊び（バナナ鬼、高鬼、氷鬼など） ○友達と一緒に簡単な合奏をする（カスタネット、鈴、タンバリン） 「おおかみと七ひきのこやぎ」「さんまいのおふだ」「まめたろう」「おへそのひみつ」 「おおきなおおきなおいも」「やまなしもぎ」「わたしのワンピース」 「ゴリラのパンやさん」「てぶくろ」「ふゆめがっしょうだん」 						
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○風邪などの感染症が流行しやすい時期なので、家庭でも予防の習慣が身に付くように症状や予防の仕方について知らせる。 ○保護者会で保護者同士が親しく関わられるように、グループ懇談などをしていきながら、共通の話題について話し合えるような機会を作る。 						

友達と思いを出し合って遊ぶ

落ち葉で遊ぶ（11月）

ねらい：友達と一緒に葉っぱを集めたり敷き詰めたりなど、感触を味わいながら遊びを楽しむ。

一人の子どもが園庭に落ちている葉っぱを拾って並べ始める。その様子を見て、他の子どもも仲間入りし、落葉拾いの輪が広がっていく。たくさん集めることを楽しむ子、色や形を吟味しながら気に入ったものを集める子など、その子なりの思いで集めていく。段ボール箱に葉っぱを敷き詰めてプールにしたり、集めた葉っぱを手に取り、空に向かって放り投げてはかかると楽しんだり、滑り台の上から「葉っぱ雨」とまいては集めることを繰り返したり、葉っぱの冠を作ったりと、友達と一緒に様々な遊びを考えて楽しむ。

【★環境構成・○保育者の援助】

- ★朝、園庭の落ち葉をそのままにしておき、落葉の美しさに関心をもてるようにする。
- ★ビニール袋・段ボール箱、お面のベルトなど、遊びに必要になりそうな物をあらかじめ準備しておく。
- 一緒に活動しながら遊びの展開に合わせて、場や物の使い方などの援助をする。

経験している内容

- ◆遊んだ後の葉っぱを掃き集める。
- ◆石鹸で手洗いをする。

- ♡友達と遊び方を工夫したり、気付いたことを伝え合ったりする。

◆健康・生活 ♡人との関わり ●学びの芽生え



- 葉の大きさや形、色付き方の違いに気付いたり美しさを感じたりしながら集める。
- 葉っぱで様々な遊び方を考える。

互いに思いを出し合って（12月）

ねらい：友達と工夫したり、互いの思いを出し合ったりして一緒に遊ぶことを楽しむ。

ブロック遊びも1学期に比べると、作るものが複雑になり、工夫が見られる。友達との関わりも増え、自分の作ったものを見せながら説明したり、「いいねえ」と認めたりする様子も見られる。また、列車やタワーなど、友達と作ったものを組み合わせて発展していく様子も見られる。武器を作って戦いごっこも楽しむが、一方でトラブルになることも多い。保育者が、それぞれの言い分を聞きながら互いの気持ちが分かり合えるよう仲立ちし、どうすればよかったか子どもと一緒に考えるよう丁寧に関わる。

【★環境構成・○保育者の援助】

- ★自分たちで出し入れができるように、子どもと一緒にブロックの整理方法を決め、表示を付けておく。
- 工夫していることを十分に認める。
- 友達との遊びの楽しさに共感する。
- トラブルがあったときは、互いの思いが分かり合えるよう仲立ちし、どうすればよかったか考えられるようにする。

経験している内容

- ◆ルールや約束事を守って、安全に遊ぶ。

- ブロックの形や大きさを考えながら、イメージしたことを工夫して作る。

◆健康・生活 ♡人との関わり ●学びの芽生え



- ♡組み上がったブロックを友達と一緒に合体させたり、足りない分を貸し借りして補ったりする。
- ♡自分の思いを相手に伝えたり、相手の気持ちを聞いたりする。

4歳児 V 期（1月～3月）

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○年長組になることに期待をもち、生活に必要なことを自分たちで進めようとする。 ○一緒に遊んでいる友達に、自分の思いや考えを表したり、相手の思いに気付いたりしながら遊ぼうとする。 ○友達と一緒に試したり、工夫したりして遊びを進める楽しさを味わう。 	
経験する内容	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ・生活に必要な習慣を身に付け、自信をもって園生活に取り組む。 ・寒さに負けず、戸外で全身を思い切り動かして遊ぶ。 ・自分の健康に関心をもち、様々な食べ物を進んで食べようとする。 ・5歳児に係の仕事を教えてもらうなどの機会を通して、年長組になる期待をもつ。 ・危険なものや危険な場所を知り、安全に気を付ける。 ・してよいこと、いけないことがあることに気づき、考えながら行動する。
	人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に遊びや仕事を楽しみながらやり遂げようとする。 ・自分の意見を主張したり、友達の意見を受け入れたりしながら一緒に遊ぼうとする。 ・友達の気持ちに気づき励ましたり、助けたりする。 ・クラス全体で行う活動を通して、満足感をもったりクラスのつながりを感じたりする。 ・自分たちで簡単なルールを作ったり、守って遊んだりする。
	学びの芽生え	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりの目的を見付け、何度も試してみようとする。 ・日常生活に必要な言葉が分かり、進んで使ったり、自分から挨拶したりする。 ・遊びの中で、自然の変化に気づき、季節の移り変わりを感じる。 ・絵本やお話などのストーリーに沿って、役になりきって表現することを楽しむ。 ・日常生活の中で、文字や数量や図形などに関心をもつ。
環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ○行事や活動に見通しをもち、意欲的に取り組めるように、見て分かる掲示を工夫する。 ○3歳児や5歳児と関わる機会を意図的に作り、自分たちが年長組になる期待を高められるようにする。 ○冬の自然事象に興味や関心がもてるように、図鑑や掲示物を配置する。 ○伝承遊びを繰り返し楽しめるように場を作ったり、道具を配置したりする。 	
保育者の援助	<ul style="list-style-type: none"> ○5歳児の生活の仕方を聞いたり、当番活動の引き継ぎをする機会を作り、年長組になることへの期待をもてるようにする。 ○友達との関わりの中で、自分の考えや思いを表現する姿を認め励ますことにより、自信をもって表現できるようにする。 ○一つ一つの活動の意味を知らせ、自分なりの目的意識をもって活動に取り組めるように援助する。 ○子どもの活動の様子や頑張っているところ、自分で考えたり、工夫したりしている様子を他の子どもにも知らせ、一人一人のよさがクラスの中で認められるようにする。 	
遊び教材 絵本	<ul style="list-style-type: none"> ○戸外で体を動かす遊び（ドンじゃんけん、縄跳び、中当てなど） ○日本の伝統や節目を感じる製作（鬼のお面・ひな人形・年長児へのプレゼントなど） ○お正月遊び（カルタ・すごろく・こままわしなど） ○劇遊び・合奏 「3びきのくま」「いやいやえん」「だるまちゃんシリーズ」「てのひらおんどけい」 「まほうのえのぐ」「ぐりとぐらのおきやくさま」「いたずらきかんしゃちゅうちゅう」 「しんせつなともだち」「おおきくなるっていうことは」「ばばあちゃんのそりすべり」 	
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○1年間の子どもの成長を具体的に保護者に伝え、一緒に進級に期待がもてるようにする。 ○基本的な生活習慣や生活リズムが自立していくことの大切さを知らせ、進級を励みに再度丁寧に見ていくことを共通理解する。 	

年長さんみたいにやってみたい！

年長のコマに挑戦！（1月～2月）

ねらい：年長組に憧れの気持ちを持ち、コマ回しに挑戦する。

引きゴマが回せるようになり、年長組のコマ回しをできるようになりたいと意欲を見せる子どももいる。年長組のひもの巻き方、引き方を見よう見まねでやっている。繰り返し根気強く練習し、初めて回せると「できた！」とコマが回るのを嬉しそうに見ている。できるようになった仲間と繰り返し挑戦している。

【★環境構成・○保育者の援助】

- ★友達と一緒に取り組めるようコマ回し板を用意し、場所を設定する。
- 年長組のようにやってみたい気持ちを受け止め、個々の興味に応じて援助する。
- 根気強く取り組む子どもの姿を認め、自信につなげていく。

経験している内容

- ◆遊んだ後はひもを結んで、コマと一緒に所定の場所にしまう。

- ♡コマの回し方を教えたり、教えてもらったりする。
- ♡友達ができるようになったことを共に喜ぶ。

◆健康・生活 ♡人との関わり ●学びの芽生え



- 5歳児の姿に憧れの気持ちをもつ。
- 5歳児のやっている様子を見て、自分なりにやってみようとする。
- あきらめずに繰り返し挑戦する。

あやとりをやってみよう（2月）

ねらい：友達と一緒にあやとりに取り組み、様々な形ができることを楽しむ。

5歳児が、あやとりの様々な技に挑戦するのを見て、自分もやってみたいと興味をもつ子どもが出てきた。ひもを渡し、基本の形を教えたところ、熱心に取り組む。その様子を他の子どもたちにも知らせたところ、次々にやりたいと声上がる。保育者が昔から伝わるあやとりの技を子どもに見せ、やり方を教える。ほうきなどの簡単な技から「さかずきーエプロンー電球の球ーものさし」とストーリーのある技まで、それぞれの興味に応じて挑戦する。できるようになった子どもは、得意そうに友達に見せている。「どうやるの？」とやり方を聞かれ、教えようとする様子も見られる。

【★環境構成・○保育者の援助】

- ★ひもは、扱いやすいよう少し太めにする。
- ★いつでも取り組めるよう、また大切に扱ったりするよう個人用を用意する。
- 保育者自身が技を身に付けて子どもに見せ、遊びの魅力を伝えていく。
- あやとりのひもの取り扱いを十分に注意し、間違った使い方をしないように見守る。

経験している内容

- ◆あやとりのひもを大切にしている。

- ♡友達と教え合ったり、見せ合ったりして楽しむ。
- ♡友達が頑張っている姿に気付く。

◆健康・生活 ♡人との関わり ●学びの芽生え



- 日本の伝承遊びに親しむ。
- 繰り返し取り組み、指の動きやひもの操作がスムーズになる。
- 偶然できた形を見立てたり、できるようになった技を繰り返し行う。

みんなで劇を作ろう（1月下旬～2月下旬）

ねらい：○友達と動物になって遊ぶ中で、自分なりのイメージを動きや言葉で表したり、友達の言葉や動きを意識したりして一緒に遊ぶことを楽しむ。

○クラスのみんなで劇遊びに取り組み、表現する楽しさややり遂げた満足感を味わう。

友達と動物になって遊ぶ中で…動物ごっこの広がりと思いの違い

年長組の劇遊びを見たことをきっかけに、気の合う友達と同じ動物になって遊ぶことが続いている。オオカミになった男児たちが、ウサギやリスになった子どもを度々追いかけて、その度に「やめて！」「お家が壊れちゃう、壊さないで！」と言われている。ついにB児たちが「先生、A君たちが嫌なのに追いかけてくる」「入れても言わないで、家に入ってくる」と、助けを求めてきた。

そこで保育者は、動物ごっこの子どもたちを集め、皆が思ったことを伝え合うようにする。A児たちは「オオカミはウサギやリスを食べるから追い掛けるんだよ」と主張する。B児たちは「追い掛けられたり、家を壊されたりするのはいやだから来ないでほしい」と言う。「オオカミは強いんだよ」「ウサギとかも食べるよ」「そんなのは悪いんだよ」など言い合う。

どうしたら楽しく遊べるかしら…みんなで考える

保育者は、お互いが思いを十分出し合ったことを見計らい、「どうしたら、動物たちがみんな、楽しく遊べるかしら」と話の方向付けをする。子どもからは「別々に遊びたい」「一緒にいい」「オオカミはお腹がすいているんだから追いかけていい」などの思いが出される。B児が「それならご飯を作ってあげる」と言い、A児が「じゃあケーキがいい」と答えたことをきっかけに、それからは「どんなご飯が食べたいか」「ご飯は誰が作るか」に話移っていく。「私はケーキを作ろう」と保育室の製作コーナーに取りに行く子、「おにぎりを作るから黒い紙がほしい」と保育者に頼む子など、様々なイメージを膨らませ、トラブルを越えて遊びが楽しくなってきた。

本当はやりたいけれど…C児たちが楽しめるには？

ほとんどの幼児が動物ごっこを楽しむ中で、C児とD児は、友達の様子を見て笑顔になったり家を見に行ったりと、気になる様子ではあるが参加しようとはしない。保育者は、普段自分の気持ち主張することの少ない2人の様子から、本当はやりたいけれど、きっかけがつかめないのではないかと捉え、「2人のお家を作る？」と声を掛けた。

C児たちは、「作らない。オオカミが来ると嫌だから」と言う。保育者はオオカミを怖がっていることを知り、「一緒にオオカミに話をしてみよう」と、オオカミにどう伝えるか言葉を相談する。一緒にA児たちのところに行き「動物のお家を作るけど、オオカミは来ないでほしい」と伝えると、A児は「オオカミより強い動物になればいいよ。ゾウだったら強いよ」と言う。2人は「そうだね」と嬉しそうに言い、すぐにゾウの家作りの材料を探しに行く。

【★環境構成・○保育者の援助】

- ★自分たちで遊びの場を作って遊べるように牛乳パックの衝立、段ボールなどを用意する。
- ★動物になりきって遊べるように、製作コーナーに子どものイメージを引き出すような材料を用意する。（お面やしっぽになりそうな材料）
- 子どもの遊びの様子を見ながら、場の調整をしたり材料と一緒に考えたりなど、それぞれが自分の思いを表現して遊んだり、友達と関わって遊ぶことを楽しめるようにする。
- 互いの思いに気付くことができるよう、話を聞くよう促したり言葉を補ったりする。

経験している内容



- ◆互いに気持ちよく遊ぶにはどうしたらよいか考える。

◆健康・生活 ♥人との関わり ●学びの芽生え

- ♥気の合う友達とイメージや考えを伝え合う。
- ♥友達の話聞いて、気持ちに気付いたり、受け入れようとする。
- ♥遊びの楽しさを共有する。

- 動物になりきって表現することを楽しむ。
- 遊びに必要なものを考えて作る。
- 様々な道具や材料を使って、イメージしたことを表現する。

子どもたちの動物ごっこでの体験を、劇遊びにつなげる

保育者は、これから取り組む発表会の劇に、子どもたちの動物ごっこの体験をそのまま生かしたいと考え、帰りの時間に、C児とD児がゾウになったこととその理由を伝える。保育者は「最初はウサギやリスもオオカミが怖かったよね」と、以前のやり取りを思い出せるように話を向ける。子どもたちから「オオカミにごちそうを作ったからもうオオカミは追いかけないよ」「ホットケーキも作ったよ」「オオカミがホットケーキがいいって言ったんだよね」と、いろいろな話が出る。

保育者は、子どもたちの話をその場で絵に描き、最後に紙芝居のように読んで、ストーリーにしてみる。子どもたちがとても喜んだので「じゃあ、今のお話をみんなでやってみようか。ゾウさんのお家はここね」と、その日、遊んでいた動物ごとに家の場を決める。

保育者が「あるところにウサギがいました。ウサギは野原で遊んでいました。何をして遊んでいたのかな？」と言うと、ウサギたちは「かくれんぼ！」と言い、遊び始める。「そこへオオカミがやってきましたよ」「お腹がすいた。お前たちを食べてやる！」と、即興でオオカミと動物のやり取りをする。子どもたちはワクワクした様子で自分の出番を待ち、簡単な繰り返しのやり取りでの劇遊びを楽しむ。

その後、子どもたちと相談しながら、動物ごとの動きや言葉、やってみたいことなどを決め、クラスのオリジナルのストーリーができあがり、発表会での劇遊びを楽しんだ。

【★環境構成・○保育者の援助】

- ★遊びの中で自分のイメージを実現できるよう素材や遊具を準備し、必要に応じて提示していく。
- 絵本などをもとに、遊びの中で繰り返しのやり取りをしたり、日常の遊びをストーリーに取り入れれたりして、イメージを共有しながら劇遊びを作っていく楽しさが感じられるようにする。
- その子なりの表現を十分に認め、表現する楽しさを味わい、自信がもてるようにする。

経験している内容

- ♥友達と声を合わせ、言葉のやり取りをしながら、みんなで表現することを楽しむ。
- ♥友達のよさに気付く。

- ◆劇遊びをやり遂げた満足感を味わい、成長したことを感じる。



◆健康・生活 ♥人との関わり ●学びの芽生え

- 自分なりのイメージを言葉や動きで表現する。
- 劇遊びに必要なものを考えて、友達や保育者と一緒に作る。
- 人に見てもらおう緊張感や喜びを味わう。

5歳児

自分が好き 友達が好き！仲間と一緒に育ち合い

1 発達の特徴

【基本的な生活習慣の確立】

起床から就寝にいたるまで、生活に必要な行動のほとんどを一人でできるようになる。一日の生活の場を整え、その必要性を理解するようになる。人の役に立つことが嬉しく誇りに感じられ、進んで大人の手伝いや年下の子どもの世話をしたりするようになる。こうした中で相手の心や立場を気遣っていく感受性をもつようになる。

【巧みな全身運動】

全身運動がなめらかになり、様々な運動に意欲的に挑戦するようになる。同時に細かな手の動きが一段と進み、自分のイメージしたように描いたり、ダイナミックな表現とともに細やかな製作をしたりなど、様々な方法で様々な材料や用具を用いて工夫して、表現することを楽しむ。子どもの表現には、子どもの内面の成長や心の豊かさが現れ、一つの表現が更に表現しようとする意欲を高めていく。

【自主と協調の態度】

集団でのごっこ遊びの中で役割が生まれ、協同しながら遊びを持続し、試行錯誤しながら満足いくまで楽しもうとするようになる。仲間の一員として認められ、遊びの楽しさを共有するためには、創意工夫する主体的、自主的な姿勢や自由な発想が必要となる。また、友達の主張に耳を傾け、自分の主張を一步譲って仲間と協調したり、意見を調整したりしながら仲間の中で合意を得ていくといった経験も重要となる。6歳児は社会生活を営む上で大切な自主と協調の姿勢や態度を身に付けていく時期である。

【思考力と自立心の高まり】

これまでの活動や経験を通して自信をもつようになり、様々なことに関心を示し、意欲的に環境に関わっていく。自ら言葉を使い文字を書いたり読んだりする姿も見られ、社会事象や自然事象などに対する認識も高まる。また、自分自身の内面への思考が進み、自意識が高まるとともに、自分とは異なる身近な人の存在や、それぞれの人の特性や持ち味などに気付いていく。様々な経験や対人関係の広がりから自立心が高まり、就学への意欲や期待に胸を弾ませていく。

(「保育所保育指針解説書」参照)

2 経験させたい保育内容

<健康・生活>

- ・一日の生活の流れや時間に見通しをもって行動するようになる。
- ・生活に必要なことを進んで行い、自分たちで生活の場を整える。
- ・運動的な遊びに積極的に取り組み、活発に体を動かしたり、自ら挑戦したりする。

- ・決まりや約束事の大切さが分かり、守ろうとする。
- ・就学への期待をもつ。

<人との関わり>

- ・相手の気持ちや立場を気遣うようになり、手伝ったり親切にしたりなど、人の役に立つ喜びを味わう。
- ・友達と共通の目的に向かって、思いや考えを伝えたり相手の話を聴いたりしながら、折り合いをつけたり、調整したりして、協調して遊ぶ充実感を味わう。
- ・仲間の中の一人として自覚をもち、友達への親しみや信頼感を深める。
- ・自分とは異なる友達の存在や、それぞれの人の特性や持ち味など、よさに気付く。

<学びの芽生え>

- ・興味や関心をもって意欲的に環境に関わり、試行錯誤しながら遊ぶ楽しさを味わう。
- ・それまでの経験を基に、自分なりに考え判断して行動しようとする。
- ・自分の思いを言葉で分かりやすく表現しようとしたり、調整しようとしたりする。
- ・様々な材料や用具を使って、工夫して表現することを楽しむ。
- ・自然との関わりの中で、美しさや不思議さを感じたり、命の尊さに気付き、いたわったり大切にしたりする。
- ・文字や標識の役割を知り、必要に応じて使ってみようとする。
- ・数、量、図形に関心をもち、比べたり、測ったり、数えたり、多様な形に触れたりする。

3 家庭との連携

○子どもの成長の様子を伝え合う

- ・日常生活の中で、その子のよさや成長を感じられるようなエピソードを降園時に話したり連絡帳などで伝えたりして、成長を感じられるようにする。
- ・遊びの中で、子どもがどのような学びをしているのかを、保護者会や手紙、個人面談、保育参観・参画などを通して具体的に伝え、成長を感じられるようにする。
- ・友達関係が複雑になったり力関係が出てきたりして、保護者も心配を抱えることがある。じっくり耳を傾け保護者の気持ちを受け止めるとともに、葛藤や友達とのトラブルを乗り越えていく過程が、子どもにとって大切な経験であることを、日々の援助の様子とともに伝え、家庭と園が一緒に見守る信頼関係を築いていくようにする。

○就学に向けて家庭と園が連携し、子どもが小学校生活に期待をもてるよう支援する

- ・小学校への就学を意識し、文字や数など学習面への不安をもつ保護者も出てくる。小学校の先取りをして教え込むのではなく、遊びや生活の中で、直接体験を通して興味・関心を培うことが小学校教育につながっていくことを分かりやすく伝えていく。
- ・近隣の小学校と連携した就学にあたっての講話などを通し、保護者自身が小学校生活への安心感をもてるようにし、子どもが期待感をもてるような関わり大切さを伝えていく。
- ・生活リズムを整え、自分のことを自分で着実にできるようになることが、小学校生活への円滑な移行を支える1つの要素となる。基本的な生活習慣の自立を促すよう連携していく。

5歳児 I 期（4月～5月）

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○年長になった喜びや期待をもち、周囲の環境に自分から関わり、いろいろな遊びに取り組む。 ○自分の思ったこと、感じたこと、気付いたことを伝えたり、一緒に遊んだりしながらクラスのつながりを感じる。 ○新しい環境に安定し、生活の仕方を考えたり、人の役に立つ喜びを感じたりしながら、年長としての自覚をもつ。 	
経験する内容	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ・友達や保育者に、挨拶をしようとする ・新しい生活の場の使い方を知り、決まりやルールを守って遊ぼうとする。 ・遊具や所持品の置場を相談したり、表示などを付けたりして、自分たちの生活の場を整えていく。 ・当番活動や手伝いなどに取り組み、認められたり人の役に立ったりする喜びを感じる。 ・保育者の話をよく聞き、親しみをもったり、初めてのことで安心して行動したりする。
	人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・友達や保育者と一緒に、年長組になった喜びを共感し合い、つながりを感じる。 ・友達や保育者に自分なりの言葉で思ったことや感じたことを伝え、伝わる喜びを感じる。 ・相手の言葉を聞いたり、表情や動きから相手の気持ちを感じ取ったりして行動する。 ・クラスの皆で、一緒に歌ったりゲームをしたりして、クラスのつながりを感じていく。 ・年下の子どもの世話をする中で、自分にできることをしたり、手伝ったりなど、優しく関わろうとする。
	学びの芽生え	<ul style="list-style-type: none"> ・春の自然に親しみ遊びに取り入れながら、美しさや気持ちよさを感じたり、様々に考えたり試したりしながら遊ぶ。 ・身近な動植物に親しみ、触れたり世話をしたりする。 ・5歳児ならではの遊具や道具の安全な扱い方を知り、使って遊ぶ楽しさを感じる。 ・様々な素材に触れながら、自分なりのイメージで作ったり描いたりすることを楽しむ。 ・ルールのあるゲームや鬼遊びなどに繰り返し取り組み、集団での遊びを楽しむ。
環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもと話し合いながら、動線を考慮した遊具の置場、表示類など、生活の場を一緒に作っていく。 ○年長組なって使える遊具・用具を用意し、安全な使い方を指導しつつ、子どもが試したり楽しんだりできるよう、十分に好きな遊びの時間を保障していく。 ○身近な春の自然に目が向くよう、気付きや思いを伝え合う機会をもったり、様々に試しながら遊べる環境作りをしたりする。（自由に摘める草花、図鑑、すり鉢、ポリ袋など） ○飼育物の世話やお休み調べなど、必要感に気付かせながら当番活動につなげていく。 	
保育者の援助	<ul style="list-style-type: none"> ○進級して張り切っている気持ちを受け止めながら、自分たちでやろうとしている姿を認め喜びを共有することで、成長の喜びを感じたり自信をもって行動できるようにする。 ○みんなで一緒にする活動やクラス全体で集まる時間を大切にし、一人一人の子どもが、クラスと自分のつながりを感じ、伸びやかに生活できるようにする。 ○新しい場所や遊具の使い方について、皆で話し合っ決めていく機会をつくったり、ルールや決まりの必要性を感じたりして、自分たちで守って行動する気持ちをもてるようにする。 ○自分たちで生活を進めていこうとする姿を折に触れ、言葉にして認めながら、年長としての自覚が芽生えるようにする。 	
遊び教材絵本	<ul style="list-style-type: none"> ○春の自然物を取り入れた遊び（色水、ごちそう作り、ダンゴムシ探しなど） ○鬼遊び・中あて ○巧技台や大型積み木を使った遊び ○体操・リズム ○こいのぼり製作 「そらいろのたね」「畑のカーニバル」「とんことり」「わんぱくだんのかくれんぼ」 「やまのぼり（ばばあちゃんシリーズ）」 「たんぼぼ」 	
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○進級した喜びを味わえるよう、家庭でも自分でやろうとする姿を認めたり、手伝いの機会などを作って、意欲につなげていくよい機会であることを伝える。 ○張り切る気持ちの反面、心身ともに疲れやすいので、休息や睡眠など生活リズムを整える大切さを伝えていく。また、家庭での様子もよく聞き、園での気持ちの受け止めや援助に生かしていく。 	

いよいよ年長組！うれしい気持ち、張り切る気持ち！

ウサギのお世話やってみよう（4月）

ねらい：友達と一緒にウサギの世話をする中で、その必要感に気付いたり愛着をもったりする。

前年度の年長組からウサギの世話を引き継ぎ、興味のある子どもたちと保育者で一緒に行う。集合時にそのことを話題にすると、「明日はやりたい」という子も出てくる。世話をしながら「きれいになったね」「ウサギは自分ではお掃除できないからね」「えさ、食べてる！」「かわいい！」と思いを言葉にする。

【★環境構成・○保育者の援助】

- ★写真や絵などを使って手順を分かりやすく表示する。
- 保育者も一緒に行いながら、認めたりウサギの様子に気付かせたりする。
- 徐々に、毎日世話をする必要性に気付かせ、当番活動につなげていく。

経験している内容

◆当番活動の必要性に気付き責任をもって行おうとする。

♡友達と一緒に取り組む楽しさを感じたり、思うことを伝えたりする。

◆健康・生活 ♡人との関わり ●学びの芽生え



●飼育物の動きに関心をもって見たり、愛着を感じたりする。

◆●自分が役に立つ喜びを感じる。

憧れの大型積木、嬉しいな（4月）

ねらい：大型積木の使い方を知り、友達と一緒に運んだり並べたり積んだりして楽しむ

年長組になって使えるようになった大型積木。保育者が、落とすと危ないので大きな積木は友達と一緒に運ぶよう安全指導をする。「力持ちだから一人でも大丈夫」と床をひきずる友達に、「一緒に運ぶんだよ」と伝えたり、「○○ちゃん、手伝って」と声を掛けたりする。友達と一緒に、並べたり積んだりして、基地やおうちごっこなどを楽しむ。

保育室のロッカーや遊具の置き場所の表示を作ったことを思い出し、「大型積木の置き場所も描こう」と、保育者に提案する子もいる。

【★環境構成・○保育者の援助】

- ★形ごとに片付ける、置き場所の広さと高さを決め、その中に収めるよう工夫するなど、形や大きさなどが意識できるようにする。
- 大型積木の運び方、積み方など、約束を伝え安全指導を行うと同時に、具体的な場面でその都度、安全な使い方に気付いていけるよう指導する。



経験している内容

◆約束やルールの必要性が分かり、遊具を安全に扱おうとする。

♡●イメージをもって場を作ったり、友達と一緒に気持ちを合わせて運んだりする

◆健康・生活 ♡人との関わり ●学びの芽生え



●表示の意味や文字の役割が分かって使おうとする。

●大きさや形、重さに気付いたり関心をもったりしながら、並べたり積んだりする。

5歳児 Ⅱ期（6月～8月）

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な遊びや活動に自分なりに目的をもって取り組み、試したり考えたりしながら遊ぶ。 ○友達と思いを伝え合いながら、遊びや生活を進めようとする。 ○身近な環境に触れ、試したり考えたりしながら遊ぶ。 						
経験する内容	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">健康・生活</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・手洗いやうがい、汗を拭く、衣服の調整をするなど、清潔にすることの必要性が分かり、進んで行く。 ・自分の所持品の始末や使った遊具の片付けを着実にしたり、共有の場をみんなできれいにしたりする。 ・自分なりに目標をもっていろいろな運動に組み込み、様々な動きを楽しむ。 ・夏ならではの遊びを通して、全身をダイナミックに使い、思い切り活動する充実感を味わう。 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">人との関わり</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなが気持ちよく生活するために、約束を守ることが大切なことを分かって生活する。 ・友達と遊び方を確認したり伝え合ったりして、ルールを意識して遊びを進めようとする。 ・友達と遊ぶ中で、イメージが共通になっていく楽しさを感じ、つながりを深めていく。 ・感じたことや考えたことを相手に分かるように伝えようとする。 ・自分とは違う友達の思いや考えに気付き、自分なりに考え受け入れようとする。 ・友達の様々な思いに共感する。 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">学びの芽生え</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な環境に関わり、試したり考えたりしながら遊ぶ。 ・身近な出来事に興味や関心を持ち、疑問に思ったことを保育者に聞いたり調べたりする。 ・夏野菜や草花の栽培を通して、変化や生長に興味や関心を持ち、観察したり触れたり収穫したり、みんなで一緒に食べたりする。 ・試したり工夫したりして、様々なものの感触や特徴を感じ取りながら遊ぶ。 ・音楽を聴いたり、歌を歌ったり、曲に合わせて楽器を鳴らしたりすることを楽しむ。 </td> </tr> </table>	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗いやうがい、汗を拭く、衣服の調整をするなど、清潔にすることの必要性が分かり、進んで行く。 ・自分の所持品の始末や使った遊具の片付けを着実にしたり、共有の場をみんなできれいにしたりする。 ・自分なりに目標をもっていろいろな運動に組み込み、様々な動きを楽しむ。 ・夏ならではの遊びを通して、全身をダイナミックに使い、思い切り活動する充実感を味わう。 	人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなが気持ちよく生活するために、約束を守ることが大切なことを分かって生活する。 ・友達と遊び方を確認したり伝え合ったりして、ルールを意識して遊びを進めようとする。 ・友達と遊ぶ中で、イメージが共通になっていく楽しさを感じ、つながりを深めていく。 ・感じたことや考えたことを相手に分かるように伝えようとする。 ・自分とは違う友達の思いや考えに気付き、自分なりに考え受け入れようとする。 ・友達の様々な思いに共感する。 	学びの芽生え	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な環境に関わり、試したり考えたりしながら遊ぶ。 ・身近な出来事に興味や関心を持ち、疑問に思ったことを保育者に聞いたり調べたりする。 ・夏野菜や草花の栽培を通して、変化や生長に興味や関心を持ち、観察したり触れたり収穫したり、みんなで一緒に食べたりする。 ・試したり工夫したりして、様々なものの感触や特徴を感じ取りながら遊ぶ。 ・音楽を聴いたり、歌を歌ったり、曲に合わせて楽器を鳴らしたりすることを楽しむ。
健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗いやうがい、汗を拭く、衣服の調整をするなど、清潔にすることの必要性が分かり、進んで行く。 ・自分の所持品の始末や使った遊具の片付けを着実にしたり、共有の場をみんなできれいにしたりする。 ・自分なりに目標をもっていろいろな運動に組み込み、様々な動きを楽しむ。 ・夏ならではの遊びを通して、全身をダイナミックに使い、思い切り活動する充実感を味わう。 						
人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなが気持ちよく生活するために、約束を守ることが大切なことを分かって生活する。 ・友達と遊び方を確認したり伝え合ったりして、ルールを意識して遊びを進めようとする。 ・友達と遊ぶ中で、イメージが共通になっていく楽しさを感じ、つながりを深めていく。 ・感じたことや考えたことを相手に分かるように伝えようとする。 ・自分とは違う友達の思いや考えに気付き、自分なりに考え受け入れようとする。 ・友達の様々な思いに共感する。 						
学びの芽生え	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な環境に関わり、試したり考えたりしながら遊ぶ。 ・身近な出来事に興味や関心を持ち、疑問に思ったことを保育者に聞いたり調べたりする。 ・夏野菜や草花の栽培を通して、変化や生長に興味や関心を持ち、観察したり触れたり収穫したり、みんなで一緒に食べたりする。 ・試したり工夫したりして、様々なものの感触や特徴を感じ取りながら遊ぶ。 ・音楽を聴いたり、歌を歌ったり、曲に合わせて楽器を鳴らしたりすることを楽しむ。 						
環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ○栽培しやすい野菜を選び、収穫を楽しめるようにしていく。また、世話をしていく中で、「やってみよう」と思うことを取り入れて進んで取り組めるようにしていく。 ○疑問に思ったことをすぐに調べることができるように、図鑑や絵本、必要な用具等を用意しておく。 ○様々な水遊びが楽しめるよう環境構成していく。 						
保育者の援助	<ul style="list-style-type: none"> ○子ども同士のぶつかり合いや葛藤を通して、相手の思いに気付き理解し、受け入れることができるよう仲立ちしていく。 ○いろいろなことに挑戦して頑張っている気持ちを受け止め、できるようになった喜びに共感していく。 ○食育活動において、保育者だけでなく調理担当職員と協力し、子どもたちと共に考え、工夫して進めていくことができるようにしていく。 						
遊び教材 絵本	<ul style="list-style-type: none"> ○プール遊び、泥んこ遊び、船作りなど、夏ならではの遊び ○絵の具を使った遊び（染め紙、マーブリング、フィンガーペインティング） ○自然物に触れながら、調べたり確かめたりする体験（色水、栽培活動、幼虫の観察など） 「あいうえおうさま」「おしいれのぼうけん」「めっきらもっきらどおんどん」 「せんたくかあちゃん」「たんたのたんけん」「たんたのたんてい」 						
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○集団の中で一人一人がどんな思いで生活しているか、特に友達との関わりの中で、経験していることを丁寧に伝え、今育ちつつある心情や技能などについて、理解し合い一緒に見守っていく。 						

みんな楽しんでくれるかなー魚つりごっこ（7月）

ねらい：友達と思いや考えを伝え合いながら、一緒に遊びを進めていく楽しさを味わう。
異年齢の友達と関わる中で、いたわりや思いやりの気持ちをもつ。

お客さんと呼ばう…必要なものは？

ここ数日、魚つりごっこを楽しんでいた6名の子どもたち。「お客さんと呼ばう」ということになり、「ポスターも作る？」「魚つりの券もいるね」などと声を掛け合い準備をしている。A児「先生、磁石と割り箸とクリップちょうだい」S児「つりざおも魚も、もっとたくさん作らなくちゃ」と、友達と必要なものを考えて作っていく。保育者は、子どもたちがイメージしたのものを作るために必要な材料を予測し、あらかじめ準備をしたり、当日までの準備について気付くことができるよう援助する。園内にポスターを貼ったり、各クラスに宣伝もしたりしながら当日を迎えた。

魚つりやさんの開店！…役割を分担して

当日の朝、年長組の保育室にブルーシートを水に見立てて敷き、周りを大型積木で囲む。池の真ん中に巧技台の踏切板で橋も作る。他の子どもたちは、園庭で遊びながらも待ちきれずに、何度も部屋をのぞきに来る。楽しいことを待つときのワクワクドキドキする気持ちが伝わってくる。池に魚を泳がせて、積木の上につりざおとバケツを置き準備完了。A児「誰が受付する？」T児「私は案内する人がいい」S児「受付と案内に分かれた方がいいね」H児「じゃあ、私、受付やるよ」と、役割分担をして開店する。

「もう1回やってもいいよ」…小さい子にも優しく関わって

たくさんのお客さんが遊びに来る。「こちらで券を渡してください」「魚つりはこちらです」と声を掛けたり、小さい子がぶつからないよう手を引いてあげたりする受付係。案内係はバケツを渡したりつりざおの使い方を教えたりしている。「魚は5匹まで」と言いながらも、もっと遊びたそうにしている小さい子どもたちには、「もう一回やってもいいよ」と言って、つった魚を池に戻してあげる姿も見られた。

あっという間に1時間が過ぎ、「お昼寝が終わったら、またやろう」ということで、給食は園庭で食べる。「魚つり、おもしろかったよ」「ありがとう」と、声を掛ける友達もいた。昼寝後は、他の子どもたちもお店の係をやらせてもらうなど、一日中魚つりを楽しんだ。

【★環境構成・○保育者の援助】

★材料や用具を、目的やイメージに合わせて使うことができるように準備しておく。

○一人一人が友達の中で、自分のイメージや考えを出せているかどうか見取り、相手の気持ちに気付いたり、思いを言葉で伝えるよう後押ししたりなど、必要に応じて援助をしながら、友達と一緒に進める楽しさが感じられるようにする。

○年下の子どもたちの様子に気付かせたり、優しく関わる様子を十分認めたりする。

経験している内容

◆健康・生活

♡人との関わり

●学びの芽生え

- ♡考えていることを相手に分かるように伝えようとする。
- ♡友達の言葉をよく聞き思いに気付く。
- ♡異年齢の友達と親しみ優しさやいたわりの気持ちをもって関わる。



- いろいろな材料や用具の特性を理解して使う。
- イメージしたこと、考えたことを作ったり描いたり行動で表現したりする。
- 遊びの中で数を数えたり文字に触れたりして、興味をもつ。

5歳児 Ⅲ期（9月～10月）

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○いろいろな運動遊びに取り組み、全身を思い切り動かして遊ぶ心地よさを味わう。 ○友達と一緒に目的に向かって取り組む中で、考えを出し合ったり力を合わせたりする楽しさややり遂げた達成感を味わう。 ○みんなで一緒に取り組む活動を楽しみながら、友達のよさに気付き、つながりを深める。 						
経験する内容	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">健康・生活</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・一日の生活の流れに見通しをもち、状況に応じて行動しようとする。 ・いろいろな運動遊びに自分なりの目標をもって取り組み、思い切り体を動かす気持ちよさを味わう。 ・ルールを理解し守りながら、チームで競い合うことを楽しむ。 ・食べること、運動すること、休息を取ることが健康な生活につながることを知る。 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">人との関わり</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に遊びを発展させる中で、自分たちで遊びのルールを決めたり確認したりしながら守って遊ぶ。 ・自分の思っていることを相手に分かるように伝えたり、相手の話していることを相手の立場に立って受け入れたりする。 ・高齢者や異年齢の友達と関わりを楽しみながら、敬ったり、相手を思いやったりする気持ちをもつ。 ・絵本や物語の内容を理解し、イメージを膨らませ楽しんで聴く。 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">学びの芽生え</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・目標に向かって友達と一緒に考えたり工夫したり、役割を意識したりして活動を進め、力を合わせてやり遂げた満足感を味わう。 ・音楽に合わせて自由に体を動かしたり、友達と一緒に動きを合わせて踊る楽しさを感じたりしながら、全身を使って表現することを楽しむ。 ・用途に合った素材を選んで使い、作ったり描いたりして楽しむ。 ・経験したこと、感じたことなどを様々な方法で自分なりに表現する。 ・日常生活の中で、必要な文字や数字、標識を進んで使う。 ・数、量、図形に興味をもち、生活の中で試したり工夫したり、書いたり読んだりすることを楽しむ。 </td> </tr> </table>	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ・一日の生活の流れに見通しをもち、状況に応じて行動しようとする。 ・いろいろな運動遊びに自分なりの目標をもって取り組み、思い切り体を動かす気持ちよさを味わう。 ・ルールを理解し守りながら、チームで競い合うことを楽しむ。 ・食べること、運動すること、休息を取ることが健康な生活につながることを知る。 	人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に遊びを発展させる中で、自分たちで遊びのルールを決めたり確認したりしながら守って遊ぶ。 ・自分の思っていることを相手に分かるように伝えたり、相手の話していることを相手の立場に立って受け入れたりする。 ・高齢者や異年齢の友達と関わりを楽しみながら、敬ったり、相手を思いやったりする気持ちをもつ。 ・絵本や物語の内容を理解し、イメージを膨らませ楽しんで聴く。 	学びの芽生え	<ul style="list-style-type: none"> ・目標に向かって友達と一緒に考えたり工夫したり、役割を意識したりして活動を進め、力を合わせてやり遂げた満足感を味わう。 ・音楽に合わせて自由に体を動かしたり、友達と一緒に動きを合わせて踊る楽しさを感じたりしながら、全身を使って表現することを楽しむ。 ・用途に合った素材を選んで使い、作ったり描いたりして楽しむ。 ・経験したこと、感じたことなどを様々な方法で自分なりに表現する。 ・日常生活の中で、必要な文字や数字、標識を進んで使う。 ・数、量、図形に興味をもち、生活の中で試したり工夫したり、書いたり読んだりすることを楽しむ。
健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ・一日の生活の流れに見通しをもち、状況に応じて行動しようとする。 ・いろいろな運動遊びに自分なりの目標をもって取り組み、思い切り体を動かす気持ちよさを味わう。 ・ルールを理解し守りながら、チームで競い合うことを楽しむ。 ・食べること、運動すること、休息を取ることが健康な生活につながることを知る。 						
人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に遊びを発展させる中で、自分たちで遊びのルールを決めたり確認したりしながら守って遊ぶ。 ・自分の思っていることを相手に分かるように伝えたり、相手の話していることを相手の立場に立って受け入れたりする。 ・高齢者や異年齢の友達と関わりを楽しみながら、敬ったり、相手を思いやったりする気持ちをもつ。 ・絵本や物語の内容を理解し、イメージを膨らませ楽しんで聴く。 						
学びの芽生え	<ul style="list-style-type: none"> ・目標に向かって友達と一緒に考えたり工夫したり、役割を意識したりして活動を進め、力を合わせてやり遂げた満足感を味わう。 ・音楽に合わせて自由に体を動かしたり、友達と一緒に動きを合わせて踊る楽しさを感じたりしながら、全身を使って表現することを楽しむ。 ・用途に合った素材を選んで使い、作ったり描いたりして楽しむ。 ・経験したこと、感じたことなどを様々な方法で自分なりに表現する。 ・日常生活の中で、必要な文字や数字、標識を進んで使う。 ・数、量、図形に興味をもち、生活の中で試したり工夫したり、書いたり読んだりすることを楽しむ。 						
環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ○生活の中で、子どもたちの考えを聞いたり話し合いをしたりする場を作っていく。 ○みんなで決めたことを分かりやすく書き掲示したり、見通しをもって生活できるように予定表やカレンダーを活用したりする。 ○鉄棒や縄とびなどの目標をもちやすい遊びや、体を思い切り動かして遊ぶことができるような環境を工夫していく。 ○自分たちで様々な運動遊びが始められるよう、ラインカーや三角コーン、バトン、運動遊具などを持ち出せるようにしておく。 						
保育者の援助	<ul style="list-style-type: none"> ○話し合いをすることが多くなっていくので、保育者が提案することとみんなで話し合って決めることを整理しておく。 ○いろいろなことに挑戦して頑張っている過程を細やかに受け止め、認めたり励ましたり、必要な援助をしながら、達成感が味わえるようにし、喜びに共感していく。 ○クラス全体で目的に向かって取り組んでいく中で、友達の頑張っている姿を認めたり、自分の責任を果たしたりして、クラスのつながりや自己有用感がもてるようにする。 ○気温の変化や紅葉、木の実など、季節の移り変わりに気付くような働き掛けをしたり、自然と関わる中での子どもの発見を受け止めたりする。 						
遊び教材絵本	<ul style="list-style-type: none"> ○運動遊びに必要な用具（ボール、縄跳び、巧技台、フラフープ） ○自然物を使った製作（どんぐり、小枝、落ち葉、まつぼっくり） 「おおきなおおきなおいも」「じごくのそうべえ」「すてきな三にんぐみ」 「おしゃべりなたまごやき」「いのちのまつり」「ロボットカミイ」 						
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○目標に向かって自分の力を発揮したり、友達と協力して一つのことをやり遂げようとしている様子を伝え、一人一人が伸びようとしていることを理解し、喜び合えるようにしていく。 						

紙芝居づくりに挑戦

森の図書館紙芝居タイム(9月~10月)

ねらい：感じたことや一人一人が想像したことをつなげながら、表現することを楽しむ。

“森の図書館”—運動会の入退場門作りから、新たな活動へ

運動会に向けて作った入退場門の大きな木。玄関の絵本コーナーに置いたところ、子どもたちは“森の図書館”と名付けて、木の下で本を読んだり製作をしたりと、好きな遊びを楽しんでいる。ある日、K児が以前の活動を思い出し、「また紙芝居作ろうかな」とつぶやく。R児「どんなお話？もう題名は決まってるの？」K児「うん、虫のプラネタリムっていうお話」R児「私もやりたいな」K児「いいよ！森の図書館でやろう」R児「図書館のお話タイムみたいだね」と嬉しそうに付いていく。

“森の図書館紙芝居タイム”に向かっ

メンバーも7名に増え、“森の図書館紙芝居タイム”の日を決めて紙芝居作りが始まる。それぞれが、自分がイメージすることを何枚か絵に描き、互いに自分の考えたストーリーを伝え合ったり、どの場面の絵を描いているかを説明したりしている。みんなが描いた絵を合わせて、お話を作っていく。イメージしていることがうまく言葉で表現できなかつたり、文字に表わすことが難しかったりするときは、保育者がゆっくり話を引き出しながらストーリーをつなげたり、文字にしたりなど援助する。友達と読む場所を分担して練習したり、紙芝居の宣伝をしたりする。

いよいよ明日は森の図書館紙芝居タイムの日。S児「明日は何時に集合する？」K児「練習した方がいいよね」S児「朝来たら、すぐ集まろう」と、期待が高まる。

楽しかった思いを共有する

当日は、朝からお客さんの椅子を並べて会場を作り練習する。「もうちょっと大きい声でお話した方がいいよ」「最初は、みんなで挨拶した方がいいね」と考えを伝え合っている。

「これから紙芝居を始めます。楽しんでください」お客さんが入れ替わるたびに、一人ずつ順番に紙芝居を演じている。終わるとたくさんの拍手をもらって、嬉しそうな顔をしている。食事のとき、A児「ちょっとドキドキしたけどやってよかったね」N児「うん、楽しかったね」と楽しかった思いを共有している姿が見られた。

【★環境構成・○保育者の援助】

★物語の世界を楽しむことができるように、ゆったりと落ち着ける雰囲気をつくる。

○やってみようと思う気持ちを大切に、一人一人が友達と十分に思いを表現し合えるよう、イメージを聞き取ったり、必要に応じて仲立ちしたりする。

経験している内容

◆健康・生活 ♥人との関わり ●学びの芽生え

- ♥友達と一緒に、イメージや考えを出し合ったり受け止め合ったりしながら遊びを進めていく。
- ♥友達と楽しさや満足感を共有する。



- 自分の想像したことを絵や言葉に表現する。
- 遊びの中で文字に触れ、読んだり書いたりすることを楽しむ。
- 見ている人を意識して表現したり、必要なものを準備したりする。

運動会 みんなで力合わせて！（9月～10月）

ねらい：○運動会に向かって、友達と一緒に考えを出し合ったり、役割を意識したりして活動を進め、力を合わせてやり遂げた満足感を味わう。

○友達と一緒にいろいろな運動遊びに取り組み、自分なりの目標をもって思い切り体を動かす楽しさを味わう。

<リレーへの取組>

走る楽しさから、競う楽しさへ

毎日、友達と誘い合ってエンドレスリレーを繰り返し楽しむ子どもたち。運動会でリレーを行うにあたり、保育者は走力ができるだけ均等になるよう、チーム分けを配慮した。チーム対抗で競争する中、「Hちゃん、走るのが速くなったね」「明日は勝てるように、もっと練習しよう！」など、友達の頑張りに気付いたり、仲間同士励まし合ったりする姿も見られる。

ルールを守る必要性 ズルして勝ってもうれしくない

競争意識も高まってきた頃、紅白リレーで、I児が白チームを内側から抜き、トラックの中を走る。結果、紅チームが勝つ。白チームから、「ずるいよ！Iちゃん内側から抜いたよ」と、声上がる。保育者はルールについて話し合うことにした。「抜くときは外側からだよ」「内側がたくさん空いてたらいいいんだよ」「Iちゃん、線の中入ってた」「勝ちたかったんだよね」「ズルは駄目だよ」など意見が出る。保育者は、「そうだね。ズルして勝ってもうれしくないね。Iちゃんは、ズルする気持ちじゃなかったけれど、勝ちたくてついそうなったんだね」と、I児の気持ちやルールを守ることの大切さを、子どもたちの言葉を補足しながら話す。

チームで頑張る意識の高まり

運動会3日前。当日に走る順番を決め、紅白リレーを行う。一人一人全力を出して走り、バトンの受け渡しでは、「はい！」「〇〇ちゃん、がんばって！」と声を掛ける姿も見られる。勝負の後の話し合いでは、「転んでもすぐ立ち上がって走る」「最後まであきらめない」「いっぱい差をつけて△△ちゃんにバトンを渡す」「バトンを落としちゃったとき、友達が頑張れって言うてくれて嬉しかった」と、自分だけでなく、一つの目標に向かって、チームで頑張る意識の高まりが伝わってきた。



<リズム表現への取組>

この曲、かっこいい！ 運動会でやろうよ

昼食の時間に、運動会で踊る曲をかけてみる。「かっこいい曲だね」「お祭りみたい」と気に入った様子で、昼食後も繰り返し聴く姿が見られる。次の日、保育者が踊って見せながらみんなで一緒に踊ると、特徴的な動きは覚えて好きな遊びの中でも踊ったり自由に表現したりする姿が見られる。「先生、この曲、運動会で踊ったらいいんじゃない？」という言葉も出てくる。

グループで考えを出し合っ

学年全体で踊ったり隊形移動をしたりする一方で、曲の一部は、グループで動きを考えて表現することにする。友達の提案する動きをグループでやってみたり、動きを組み合わせたりして創り上げていく過程を、保育者は一人一人の動きに気付かせ、分かりやすく整理しながら援助していく。それぞれのグループの表現が決まり、自分たちで曲をかけながら繰り返し楽しむ姿が見られる。



互いのよさを認め合っ

グループごとに踊りを見せ合う機会をもった。他のグループの踊りを見て、「大きな声で『ワッショイ』って元気がいい」「みんなの動きが合ってた」「手をピッと止めるともっとカッコイイと思う」など、友達のよさを見付けたり、こうするともっとよくなると意見を言ったりする。互いによさを認め合い、刺激を受けて更に自分たちも頑張ろうと気持ちが高まっていく。

<年長組として運動会をリードしていく取組>

運動会で必要なものや係の仕事を話し合う

クラスで、昨年の運動会のことを思い出しながら、係の仕事や必要なものについて考えてみる。昨年の年長組へ憧れから、係の仕事もよく覚えており、「入退場門や衣装も作らなくちゃ」という意見も出る。必要な係や作るものを紙に書き、「年長組がリーダーだからね」と張り切っている。

入退場門を作ろう

入退場門について、クラス全体で話し合う。「動物の門がいい」「池も作って魚も泳いでいるのはどう?」「木や花も飾ろう」「それなら森にしたらいんじゃない?」と、テーマは『森』に決まる。「きりん、さる、白くま」「鳥とか、どんぐりとかもいいね」と、作りたいものは次々出てくるが、全体のイメージは共通にならない。A児が「実のなる木はどう?木にいろんな動物や虫が集まって、森の運動会をするの」という意見がきっかけで、紅白のチームで1本ずつ木を作ることになる。保育者は作業の順番や作り方を分かりやすく知らせ、いろいろな材料を準備しておく。折り紙でセミやテントウムシなどを折ったり、動物を絵に描いたりして木に貼っていく。リンゴ、カキ、ドングリなどの実もたくさん作り、日に日ににぎやかになり門が完成する。

<運動会当日の達成感とその後の余韻の中で>

運動会当日は、一人一人が自分の力を発揮し、保護者や地域の方々の応援を受けながらやり遂げ、その表情には年長組として頑張った充実感が浮かぶ。家庭で保護者に褒めてもらい、クラスで頑張ったことを共感し合う。運動会後の開放感の中で、小さい組にリズムを教えたり、小学生や保護者の競技もやったりしながら、運動会の余韻を楽しむ。

【★環境構成・○保育者の援助】

- ★運動会までの見通しや役割を意識して活動できるよう、予定表や種目、係の仕事など掲示する。
- ★これまで遊びや生活の中で経験してきたことが生かせるよう、競技や演技の内容を工夫する。
- 競技、演技を通じて、伸びやかに体を動かす心地よさを感じたり、自分の進歩が分かったりできるよう援助し、自分の力を発揮して取り組むことを楽しめるようにする。
- 競う楽しさを通してチームで頑張る意識がもてるようにしたり、みんなで動きを合わせる気持ちよさに気付かせたりしながら、クラスや友達とのつながりを深めていく。

経験している内容

◆健康・生活 ♥人との関わり ●学びの芽生え

- ◆いろいろな運動遊びに目標をもって取り組み様々な体の動きを楽しむ。
- ◆遊びのルールを確かめながら、集団遊びを楽しむ。

- ♥自分の考えを相手に伝えたり、友達の考えをよく聞こうとしたりする。
- ♥友達と協力して取り組む楽しさが分かる。
- ♥互いのよさを認め合い、楽しさや喜びなど様々な感情を共感し合う。

- 前後左右が分かり意識して動く。
- 自分の役割の大切さが分かり、責任をもって取り組む。
- 人数、間隔、隊形など意識して動く。
- 人に見てもらおう喜びを味わう。

5歳児 IV期（11月～12月）

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○友達と意思を出し合い協力していろいろなことに取り組み、自分たちで遊びや生活を進めていくことの楽しさを味わう。 ○いろいろな運動遊びを通して、体を思い切り動かして遊ぶことの心地よさや、チームで協力したり競い合ったりして遊ぶことの楽しさを味わう。 						
経験する内容	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">健康・生活</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の健康に関心をもち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う。 ・園生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見通しをもって活動する。 ・自分なりに目標をもって様々な運動に取り組み、全身を巧みに動かして遊ぶ。 ・危険なものや場所、遊び方が分かり、安全に気を付けて遊ぶ。 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">人との関わり</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えと相手の考えが違うことに気付き、相談しながら進めていこうとする。 ・善いことや悪いことがあることに気付き、考えながら行動する。 ・共通の目的に向かって考えたり協力したりして、友達と一緒に取り組むことの楽しさや達成感を味わう。 ・高齢者をはじめ地域の人々など自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ。 ・ゲームや遊びの中で数を数えたり、文字に触れたりすることで興味をもち、遊びに取り入れていく。 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">学びの芽生え</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣の生活に興味や関心をもち、園内外の行事などに進んで参加する。 ・身近な社会や自然環境に自ら関わり、それらと自分たちの生活との関係に気付き、生活や遊びに取り入れる。 ・友達と一緒に工夫して描いたり作ったりすることを楽しみ、それを遊びに使ったり飾ったり、作ったもので遊んだりする。 ・物語のストーリーに沿って友達と遊びを進めたり、イメージを出し合って遊びを進めたりすることを楽しむ。 </td> </tr> </table>	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の健康に関心をもち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う。 ・園生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見通しをもって活動する。 ・自分なりに目標をもって様々な運動に取り組み、全身を巧みに動かして遊ぶ。 ・危険なものや場所、遊び方が分かり、安全に気を付けて遊ぶ。 	人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えと相手の考えが違うことに気付き、相談しながら進めていこうとする。 ・善いことや悪いことがあることに気付き、考えながら行動する。 ・共通の目的に向かって考えたり協力したりして、友達と一緒に取り組むことの楽しさや達成感を味わう。 ・高齢者をはじめ地域の人々など自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ。 ・ゲームや遊びの中で数を数えたり、文字に触れたりすることで興味をもち、遊びに取り入れていく。 	学びの芽生え	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の生活に興味や関心をもち、園内外の行事などに進んで参加する。 ・身近な社会や自然環境に自ら関わり、それらと自分たちの生活との関係に気付き、生活や遊びに取り入れる。 ・友達と一緒に工夫して描いたり作ったりすることを楽しみ、それを遊びに使ったり飾ったり、作ったもので遊んだりする。 ・物語のストーリーに沿って友達と遊びを進めたり、イメージを出し合って遊びを進めたりすることを楽しむ。
健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の健康に関心をもち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う。 ・園生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見通しをもって活動する。 ・自分なりに目標をもって様々な運動に取り組み、全身を巧みに動かして遊ぶ。 ・危険なものや場所、遊び方が分かり、安全に気を付けて遊ぶ。 						
人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えと相手の考えが違うことに気付き、相談しながら進めていこうとする。 ・善いことや悪いことがあることに気付き、考えながら行動する。 ・共通の目的に向かって考えたり協力したりして、友達と一緒に取り組むことの楽しさや達成感を味わう。 ・高齢者をはじめ地域の人々など自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ。 ・ゲームや遊びの中で数を数えたり、文字に触れたりすることで興味をもち、遊びに取り入れていく。 						
学びの芽生え	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の生活に興味や関心をもち、園内外の行事などに進んで参加する。 ・身近な社会や自然環境に自ら関わり、それらと自分たちの生活との関係に気付き、生活や遊びに取り入れる。 ・友達と一緒に工夫して描いたり作ったりすることを楽しみ、それを遊びに使ったり飾ったり、作ったもので遊んだりする。 ・物語のストーリーに沿って友達と遊びを進めたり、イメージを出し合って遊びを進めたりすることを楽しむ。 						
環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ○一日の生活の流れに見通しをもち、自分たちで遊びや生活を主体的に進めていくことができるよう、子どもたちに分かりやすい掲示をするなどの工夫をする。 ○遊びに必要な材料や用具は、今までの経験や子どもたちが考えを出し合って準備できるようにする。 ○話し合った内容や子どもたちが考えていることなどを絵や図で表現し、見合ったり確認したりできるようにする。 						
保育者の援助	<ul style="list-style-type: none"> ○目標達成に向かって取り組んでいる姿を受け止め、友達との関わりでの仲立ちをしたり、時には一緒に考えたり助言したりする。 ○いろいろなことに挑戦して頑張っている気持ちを受け止め、挑戦できた喜びや、達成感を味わえたことに共感していく。 ○いろいろな活動を通して、自分の思いや考えを表現しながら、楽しむことができているかということを考え、一人一人に合った援助をしていく。 						
遊び教材絵本	<ul style="list-style-type: none"> ○チームで競い合う遊び（ドッジボール、サッカー、鬼遊び） ○ごっこ遊びや劇遊びに必要なものを作る 「かにむかし」「かさじぞう」「たんじょうび」「こねこのぴっち」 「ダンプえんちょうやっつけた」「エルマーのぼうけん」 						
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○就学に向けて個人面談を行い、保護者が不安に感じていることや、子どもたち一人一人の発達段階をしっかりと捉え、一緒に考えていくことができるようにしていく。 ○お正月に向かって、日本の伝統文化に触れる大切さを伝え、園からも具体的な情報を伝えたり、幼い頃の温かいお正月の思い出が心に残ることを願い、家族での過ごし方など意識できるように働き掛けていく。 						

みんなで作るお楽しみ会

おばけ屋敷グループ（12月）

ねらい：友達と一緒にイメージを共有しながら、相談したり協力したりして、遊びを進めていく。

遊園地のおばけ屋敷・・・自分のイメージを友達に伝える

年長組で取り組む“お楽しみ会”。みんなで話し合った結果、遊園地ごっこ（ゴルフ・電車・まどあて・おみやげ・おばけ屋敷）をすることに決まり、グループで準備を進めていくことになった。

おばけ屋敷のメンバーは13名。まずは、一人一人がおばけ屋敷のイメージを絵に描き、それを基に話し合い、イメージを共有していくことにした。「僕はからかさおばけやりたい」「お墓の中に隠れてて、そこから出てくるのはどう？」「私はかわいいおばけがいいな」など、おばけの絵を描きながら自分のイメージを言葉でも伝えている。

看板でもいいのかな・・・友達と一緒に考える

何を描こうか困っているH児。保育者「Hちゃん、友達に相談してみたら？」それを聞いていた女兒が「Hちゃん、どうしたの」と声を掛ける。2人で相談している。しばらくするとH児がやってきて、「先生、看板でもいいのかな」保育者「いい考えだね」早速、2人でクレヨンで絵を描き、絵の具で色を塗って看板が完成する。

「おばけ屋敷の地図」—おばけ屋敷のイメージが少しずつ共通になっていく

K児とT児はおばけ屋敷の地図を描き始める。1枚描き終わると、2枚、3枚と描き足しながら、2人の描いたものをつなげ、2日間かけて描きあげる。他のメンバーに完成図を見せる。「ここがお墓。からかさおばけはここから出てきたらいいんじゃない？」「ここに学校があるんだよ」「いいね」と、少しずつイメージが共通になっていく。でき上がったおばけの絵と地図を一緒に、黒の横造紙に貼る。

おばけの衣装や道具など、子どもたちは必要なものを作り始める。試したり工夫したりしながら製作できるよう、イメージに合いそうな材料を用意しておく。困ったときには、保育者に相談したり友達と一緒に作ったりしながら、当日に向かって友達と進めていく。

【★環境構成・○保育者の援助】

★イメージしたことを、自由に描いたり作ったりすることができるように、様々な材料や用具を使いやすいように整理しておく。

○子どもたちが話し合いながら進めていくことができるように、聞き役になったり時には仲立ちをしたりして、お互いの思いを理解することができるようにする。

○クラス全体で各グループの取組を伝え合い、全体のイメージがもてるように配慮する。

経験している内容

◆健康・生活 ♥人との関わり ●学びの芽生え



- ♥●考えたことや感じたことを相手に分かるように話し、相手の話に興味をもって聞き、理解しようとする。
- ♥●友達と相談しながら、少しずつイメージを共通にしていく。

◆クラスやグループの友達とのつながりを感じ、遊びや生活を共に進めようとする。

●様々な素材や用具を工夫して使い、イメージを表現する。

5歳児 V 期（1月～3月）

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○生活の流れや時間的な見通しをもち、必要なことを着実にやるようになる。 ○修了・卒園に向けて、園生活に主体的に取り組み、小学校就学への期待をもつ。 ○友達と共に遊びや生活を進める充実感を味わう。 	
経験する内容	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ・健康な生活リズムで過ごし、健康や安全についての構えを身に付ける。 ・集団での生活の流れを予測したり、周囲の状況を感じたりして、身支度・準備・片付けなど、時間の見通しをもって行う。 ・友達と運動的な遊びに積極的に取り組み、自分たちで考えたルールを守り、みんなで遊ぶ充実感を味わう。 ・嫌なことがあっても、自分で気持ちを切り替えるようになり、自信をもって行動する。
	人と関わる力	<ul style="list-style-type: none"> ・思うことを相手に分かるように伝えようとしたり、人の話をよく聞き受け止めたりする。 ・クラス全体の共通の目標に向かって、話し合ったり役割を分担したりして進め、みんなで一緒にやり遂げた充実感や達成感を味わう。 ・クラスよさや友達とのつながりを感じながら、遊びや生活を進めていく。 ・友達の気持ちを察して行動したり、思いやりをもって接したりする。 ・人と共に心地よく過ごすための決まりやルール、マナーが分かり、守ろうとする。 ・様々な人が、自分のことを見守ってくれていることを理解し、感謝の気持ちをもったり、それを表現したりする。
	学びの芽生え	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの経験を基に、身近な用具、素材などの特性や仕組みを生かしたり、組み合わせたりしながら、遊びを充実させていく。 ・冬から初春への季節の自然に興味をもち、遊びに取り入れたり気付いたことを伝え合ったりして、自然の不思議さや美しさを感じ取っていく。 ・日本の伝統的な行事に込められた意味を知り、遊んだり作ったり描いたり歌ったりなど様々な表現を楽しむ。 ・生活や遊びを通して、長短、広さ、高低、速度、図形の特徴、数量などに関心をもち、比べたり数えたり、組み合わせたりする。 ・文字や数字、標識などが、人に伝える役割をもつことが分かり、遊びの中で使ってみる。 ・様々な機会に自分の成長を感じ、授業見学や交流を通して、小学校の生活に期待をもつ。
環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ○お正月遊びを楽しんだり、自分なりに挑戦したり作ったりする環境を準備する。 ○氷、霜柱、気温や草花の変化など、冬から春への自然について気付いたことを伝え合い、取り入れて遊べるようにする。 ○発表会やごっこ遊びなど、クラス全体の目的に向かって取り組む機会をもつ。 ○時間や生活の見通しがもてるよう、カレンダーや表示、時計などで意識付けをしていく。 ○年中児への当番活動の引き継ぎや、保育室の環境整備など卒園に向けての活動をする。 ○小学校との交流の機会をもったり、進学に期待がもてる絵本などを読んだりする。 	
保育者の援助	<ul style="list-style-type: none"> ○お正月、節分、ひな祭りなどの伝統行事に込められた意味や願いを伝え、季節の節目を知ると同時に成長の喜びへとつなげていく。 ○クラス全体の課題に向かって取り組む中で、話し合ったり協力したりする過程を見守り、必要に応じて援助しながら、皆でやり遂げた満足感が味わえるようにする。 ○一人一人の成長を具体的に認めたり、互いのよさに気付き認め合う機会をもちながら、クラスで過ごす喜びを味わい、自信をもって就学に向かえるようにする。 	
遊び教材 絵本	<ul style="list-style-type: none"> ○カルタ、コマ、すごろく、トランプ、たこ作り、たこあげ などのお正月遊び ○鬼のお面や雛人形作り ○クラスで楽しんできたリレー、ドッジボール、鬼遊びなど ○氷づくり、霜柱探し、雪遊び、春さがしなど、季節感や春への期待がもてる遊び 「ハリーのセーター」「ぼとんぼとんはなんのおと」「ぐりとぐらの1ねんかん」 「おおきくなるっていうことは」「1ねん1くみの1にち」「いちねんせいのいちにち」 	
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○就学に向けて生活習慣を見直したり、時間を意識した生活を過ごせるよう協力し合う。 ○子どもの成長を具体的に伝え合い、共感し合うことで、子どもの自信へとつなげていく。 ○保護者会等で、小学校生活や学習について正しく理解する機会をもち、保護者の不安を和らげながら、親子で就学へ期待をもって準備が進められるようにする。 	

残り少ない園生活を楽しむ—受け入れ合い、認め合いながら（2月）

ねらい： クラスや学年の友達と、互いに思いを出し合い、折り合いを付けたり、互いのよさを認め合ったりしながら、自分たちで遊びを進める楽しさを味わう。

「卒園まで、あと〇日」・・・寸暇を惜しんで遊ぶ

カレンダーを見ながら、子どもたちは「卒園まで、あと〇日」と毎日、数えている。卒園式に向かって様々な活動にグループや個で取り組む中、リレーや鬼遊びなど、これまで取り組んできたクラスの皆で楽しめる遊びを、寸暇を惜しんで楽しむ様子が見られる。

やりたい遊びがぶつかる・・・思いを受け止め、折り合いを付ける

「リレーをやろう」というA児に対し、「昨日リレーやったから今日はドッジボールがやりたい」とB児。他の子どもも「別々にやるっていうのは？」「人数が少ないとつまらないよ」と、意見が分かれ決まらない。「先にドッジボールやって、長い針が4になったら、リレーをやれば？」とB児が折衷案を出す。皆が賛同する中、A児は、「それじゃあ、ちょっとしかリレーができない」と反対する。E児が「どんどん時間がなくなるよ。じゃあ、リレーは3からでいいよ。早くやろう」と言うと、A児も渋々受け入れ、ドッジボールが始まる。

トラブルの中で・・・A児とクラスの子どもたちの成長

途中、C児が「Aちゃん、今当たったよ」と言うが、A児は「当たってない！」と強く言い返す。皆も集まってくる。保育者は様子を見守っていたが、A児は自分の思いを押し通したり怒ってやめたりすることが多いので、仲立ちしようとした。そのときD児が「Aちゃん、当たったのが分からなかったんだよ。1回だけなしにしてあげれば？」と言う。A児は、「もういいよ！」と怒りながらも外野に出る。涙をぬぐっていると、F児が「Aちゃん、当てるのがうまいからすぐ入れるよ」となぐさめる。保育者も「我慢できたね。さすがもうすぐ1年生」と認める。集合時、皆にドッジボールでのA児のことを伝えると、「Aちゃん、えらい」と認める言葉や拍手が聞かれる。

みんなとドッジボールが続けたくて感情を抑えたA児の成長や、A児に関わる子どもたちの言動や受け止めに、園生活で積み重ねてきたクラスのつながりの深まりが感じられる。

【★環境構成・〇保育者の援助】

- ★課題的な活動が多くなっていく時期なので、短い時間でも友達と遊ぶ楽しさが感じられるよう、また園生活で楽しんできた遊びに自分たちで取り組めるよう、リレーやドッジボールなどの用具、ラインカー、得点表など、自分たちで始めたり進めたりできるよう用意しておく。
- 〇子どもたちが解決しようとする姿を見守り、必要に応じて、状況や友達の気持ちに気付いたり考え合ったりできるよう援助していく。
- 〇クラスでも話題に取り上げながら、友達のよさを認めたり、自分のこととして考えたり、自分たちの成長に気付くことができるよう援助する。

経験している内容

- ◆体を思い切り動かして遊ぶ楽しさを味わう。
- ◆ボールをよく見て素早く動く。
- ◆時間を意識して遊びや生活を進める。

- ♡友達のよさや頑張っていることに気づき、認める。
- ♡友達の気持ちを察する。

◆健康・生活 ♡人との関わり ●学びの芽生え



- 状況を考えながら自分の思いを出す。
- 互いの意見を伝え合う中で、意見を調整する。
- クラスで話し合っていることを自分のこととして受け止め考える。
- 自分たちの成長に気付く。



IV 接続期カリキュラム

(園から小学校への円滑な接続のために)

はじめに

就学前教育のねらいは、「生きる力の基礎を培う」ことであり、これは乳幼児期の全体を通じ、乳幼児が様々な体験を積み重ねる中で、相互に関連をもちながら次第に達成に向かうものです。そのため、乳幼児期にふさわしい体験が得られるように、生活や遊びを通して総合的に保育することが求められています。

小学校の教育活動を進めるに当たっての目標は、まさに「生きる力を育む」ことです。保育所保育指針や幼稚園教育要領に掲げる基本と同一です。しかし、具体的な教育内容や展開の方法、学習形態、時程等においては大いに異なるため、接続期に小学校生活への円滑な移行を促す手立てを講じておく必要があります。接続期の指導計画を作成するにあたっては、園と小学校それぞれの指導内容を比較検討し、幼児が入学までに確立すべき資質や能力を明確にしておく必要があります。保育者は小学校の教職員との研究会や意見交換、交流活動を通して、相互理解を深めた上で、幼児の実態に即した保育・教育活動を組み立てることが大切です。

1 接続期カリキュラム作成について

接続期カリキュラム作成にあたり、「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続のあり方に関する調査研究協力者会議報告」（以下「報告」という。）の資料を参照しました。保育所保育指針・幼稚園教育要領、小学校学習指導要領の内容を基に、「子ども達の発達や学びの連続性を保障するため」幼児期の教育と児童期の教育に留意し組織的に行われるよう規定されていることを参考とし、接続期カリキュラムを作成しました。

【保育所保育指針】(平成20年3月)	【幼稚園教育要領】(平成20年3月)
第1章 総則 3 保育の原理 (1) 保育の目標 ア 保育所は、子どもが生涯にわたる人間形成にとって極めて重要な時期に、その生活時間の大半を過ごす場である。このため保育所の保育は、子どもが現在を最も良く生き、望ましい未来をつくり出す力の基礎を培うために、次の目標を目指して行わなければならない。 第2章 子どもの発達 1 乳幼児期の発達の特性 (6) 乳幼児期は、生涯にわたる生きる力の基礎が培われる時期であり、特に身体感覚を伴う多様な経験が積み重なることにより、豊かな感性とともに好奇心、探究心や思考力が養われる。また、それらがその後の生活や学びの基礎になる。	第1章 総則 第1 幼稚園教育の基本 幼児期における教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、幼稚園教育は、学校教育法第22条規定に規定する目的を達成するため、幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。 第3章 指導計画及び教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動などの留意事項 第1 指導計画の作成に当たっての留意事項 1 一般的な留意事項 (9) 幼稚園においては、幼稚園教育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながるよう配慮し、幼児期にふさわしい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うようにすること。

<p>第3章 保育内容</p> <p>2 保育の実施上の配慮事項</p> <p>(4) 3歳以上児の保育に関わる配慮事項</p> <p>ケ 保育所の保育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに留意し、幼児期にふさわしい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うようにすること。</p> <p>第4章 保育の計画及び評価</p> <p>1 保育の計画</p> <p>エ 小学校との連携</p> <p>(ア) 子どもの生活や発達の連続性を踏まえ、保育の内容の工夫を図るとともに、就学に向けて、保育所の子どもと小学校の児童との交流、職員同士の交流、情報共有や相互理解など小学校との積極的な連携を図るよう配慮すること。</p>	<p>2 特に留意する事項</p> <p>(5) 幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続のため、幼児と児童の交流の機会を設けたり、小学校の教師との意見交換や合同の研究の機会を設けたりするなど、連携を図るようにすること。</p>
---	--

2 「幼児期と児童期の教育」から見えるつながり

報告では、「幼児期の教育が、幼児期の教育修了までに育つことが期待される生きる力の基礎となる心情、意欲、態度について「・・・を味わう」「～を感じる」などのように、いわばその後の教育の方向付けを重視するのに対し、児童期の教育は、「～ができるようにする」といった具体的な目標への到達を重視するという違いがある」と記載されています。

「学びの芽生え」の時期である幼児期の終わりには、気の合う仲間同士の活動だけではなくクラスで共通目標をもち、自分の役割に対する理解をもって集団の一員としての自覚が育つ活動、遊びを通じた学びを総合化し、小学校に向けて学びを高めていくための教育活動の実施が必要となります。

「自覚的な学び」の時期である児童期では、学校の生活時間で行動出来たり、集団のきまりを理解し守ったりできるような指導を段階的に取り入れ、自分の興味関心に基づき課題を発見し調べるなどにより学習を深めていく教育活動へと進んでいきます。

以上、幼児期と児童期の違いはあるものの子どもの発達はつながっており、教育活動の移行には、それぞれの発達過程を踏まえ、充実させていくことが必要です。

3 「学びの芽生え」から「自覚的な学び」への円滑な移行

幼児期の「学びの芽生え」とは、学ぶということを意識しているわけではなく、楽しいことや好きなことに集中することを通じて、様々なことを学んでいくことです。幼児期における遊びの中での学びがこれに当たります。一方、児童期の「自覚的な学び」とは、学ぶということについての意識があり、集中する時間とそうでない時間（休憩の時間等）の区別が付き、与えられた課題を自分の課題として受け止め、計画的に学習を進めることであり、小学校における各教科等の授業を通じた学習がこれに当たります。

接続期では、「学びの芽生え」から「自覚的な学び」への円滑な移行のための援助や指導が必要になります。

4 幼児期から児童期への接続を見据えた保育・教育課程や指導計画作成の視点

幼児期から児童期にかけての保育・教育課程や指導計画の作成には、発達過程のつながりを見据えることが必要です。幼児期の終わり頃までに人やものに興味をもち、関わる中で様々なことに気付くとともに、それらを広げ深めていく過程の中で、自己発揮と自己抑制を調整する力が育まれ、「自立への基礎」を養うことにつながっていきます。

そこで「自立への基礎」を領域との関連から、三つの自立「生活上の自立」・「精神的な自立」・「学びの自立」に分け、その具体的事項を示します。「三つの自立」を養うことを含めた教育活動は、児童期の学力の三つの要素へとつながります。

三つの自立	
「生活上の自立」…	生活上必要な習慣や技能を身に付けて、身近な人々、社会及び自然と適切に関わり、自らよりよい生活を創り出していくこと。
「精神的な自立」…	自分のよさや可能性に気付き、意欲や自信をもつことによって、現在及び将来における自分自身の在り方に夢や希望をもち、前向きに生活していくこと。
「学びの自立」…	自分にとって興味・関心があり、価値があると感じられる活動を自ら行うとともに、人の話などをよく聞いて、それを参考にして自分の考えを深め、自分の思いや考えなどを適切な方法で表現すること。

学力の三つの要素「基本的な知識・技能」「課題解決のために必要な思考力、判断力、表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」は、生涯にわたる学習基盤の形成の在り方につながっていきます。

また、幼児期の子どもの成長は、人やものとの関わりを通してより抽象的な概念を獲得し、さらに認識を深めていくようになっていわれています。

そこで、幼児期から児童期への円滑な接続を見据え、次の2点に留意しながら、保育・教育課程や指導計画の作成をすることが大切です。

① 人との関わりの留意点

<幼児期の終わりに>

幼児の興味・関心や生活、協同性の育ち等の状況を踏まえて、課題を自分のこととして受け止め、相談したり互いの考えに折り合いを付けたりしながら、クラスやグループのみんなで達成感をもってやり遂げる活動を計画的に進めていく。

<児童期>

子どもの発達や学びの状況を把握しつつ、学校教育活動全体を通じ与えられた課題について、友達と助け合いながら自分が果たすべき役割（学習・仕事）を果たすといった規範性の形成を図る活動を計画的に進めていく。

② ものとの関わりの留意点

<幼児期の終わりに>

発達の個人差に配慮しつつ、生活や体験の中で得た規範、思考力の芽生え、言葉の正しい使い方、豊かな感性と表現力、数量的な関係などを組み合わせて課題を解決したり、場面に応じて適切に使ったりするなどを経験できるよう進めていく。

<児童期>

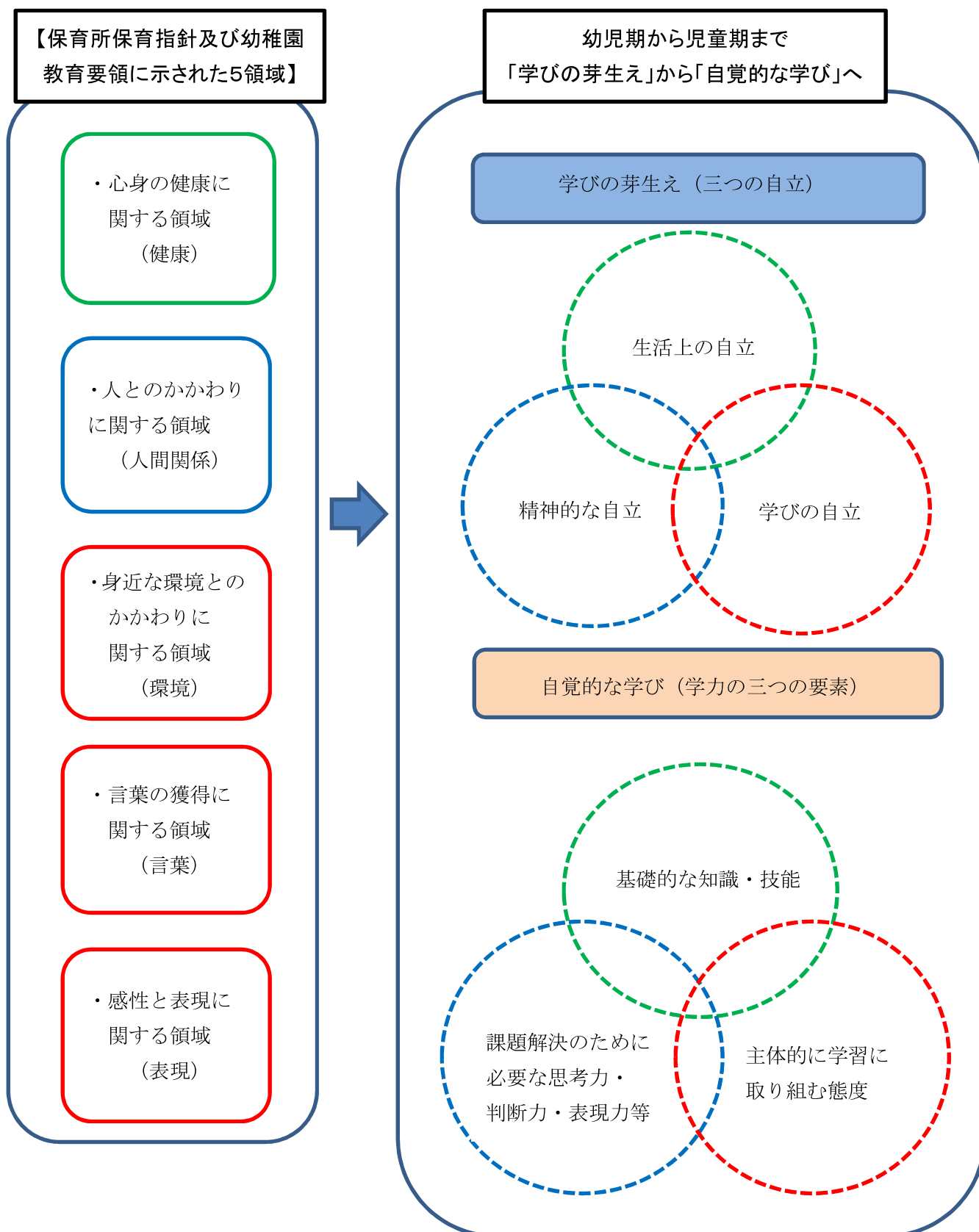
日常生活に必要な基礎的な国語能力、数量的な関係の正しい理解や基礎的な処理能力、自然事象の実感的な理解、音楽の面白さを表現する能力、自然への関心や創作活動から、発想や構想の能力の育成を図るための活動を進めていく。

5 接続期の捉え方について

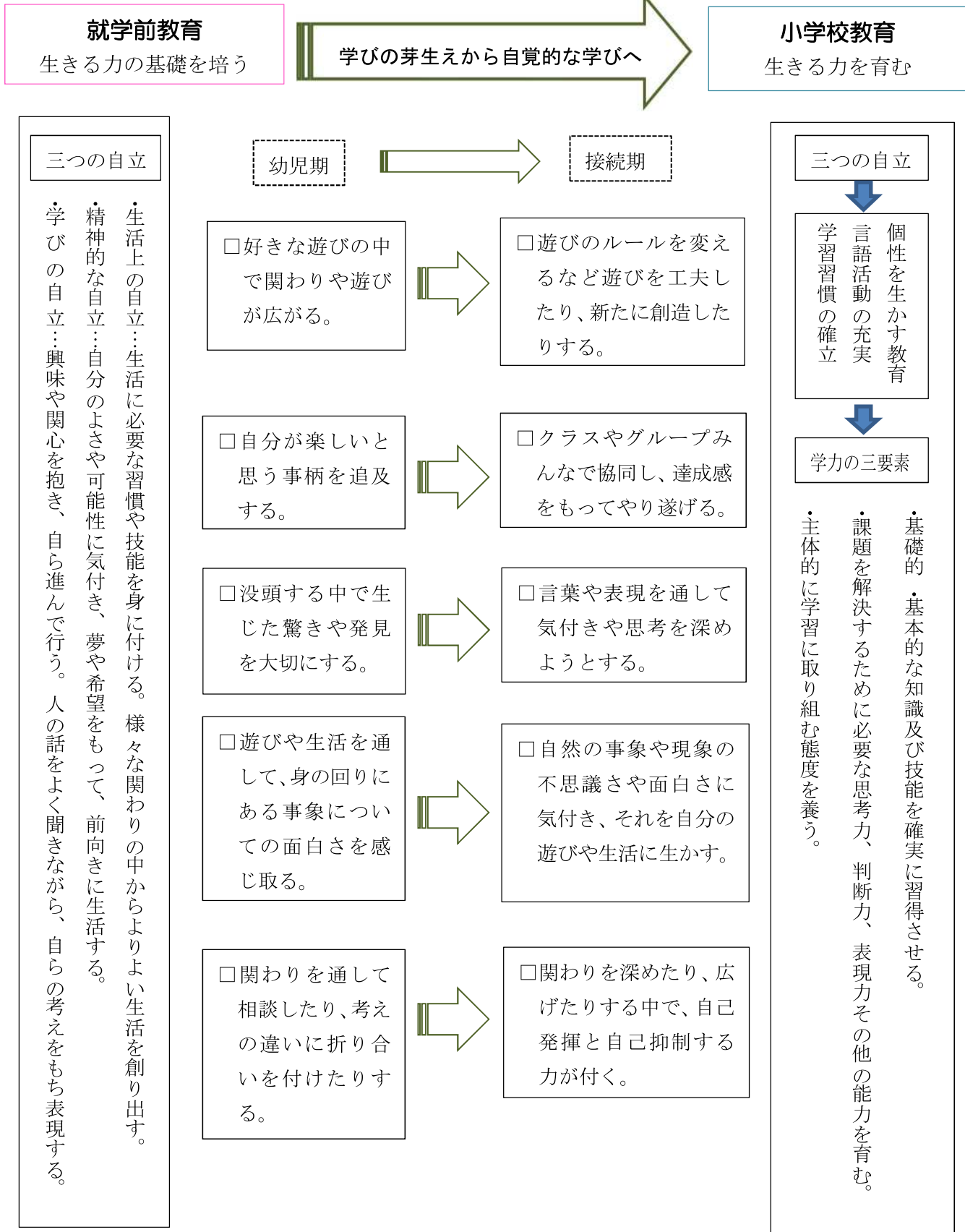
接続期カリキュラムでは、5歳児クラス10月から小学校1年生1学期までを接続期とし作成しました。本プログラムの「就学前教育カリキュラム」の中で、5歳児のカリキュラムは年間を通して作成していることから、重複しない内容としました。

6 「1～5」の事項を踏まえて

接続期の指導計画を作成するに際し、保育所保育指針や幼稚園教育要領の5領域と幼児期の終わりまでに育つ事項「学びの芽生え」と「自覚的な学び」への関連性を図にすると次のようになります。



幼児期の教育から小学校教育への円滑な接続…「三つの自立」「学力の三要素」



荒川区の目指す接続期（5歳児後半）の幼児の姿（イメージ）

生活上の自立

- ・身の回りのことを自分から進んでする。
- ・生活の見通しをもって行動する。
- ・好き嫌いなく食べられるようになる。
- ・ルールやマナーを守る。
- ・全身を使って運動することを楽しむ。
- ・安全に気を付け、道具や用具を使う。



精神的な自立

- ・友達と楽しく遊ぶ。
- ・最後まで話を聞く。
- ・共通の目的をもって取り組み、やり遂げる。
- ・相手の立場に立って考える。
- ・互いのよさを認めあう。
- ・様々な人に認められることを通して自信をもつ。
- ・困難なことも、すぐにあきらめず最後までやり遂げる。
- ・命あるものを大切にする。

学びの自立

- ・状況に応じて相手に分かるように話す。
- ・人の話を聞き理解する。
- ・栽培等の活動を通して、生命の大切さ、自然の美しさ、不思議さに気付き、感動する気持ちをもつ。
- ・探究心を持ち、自分なりに試したり工夫したりする。
- ・身近な文字や数量、物の性質に関心をもつ。
- ・目的に向かって、友達と一緒に活動に取り組む。

荒川区の目指す接続期（1年生1学期）の児童の姿（イメージ）

生活上の自立

- ・安全に気を付けながら、一人で登下校することができる。
- ・必要な持ち物を用意したり、自分の持ち物を管理したりする。
- ・決まった時間に排せつ、手洗い、水飲みを済ませ、1単位時間、集中して学習する。
- ・衣服の着脱、ひもを結ぶなど身支度がきちんとできる。
- ・食事の前後の手続き（配膳や片付けなど）を自ら行うことができる。
- ・集団の一員であることを理解し、場面や状況に配慮した行動をとる。
- ・時間や約束を守って行動する。



精神的な自立

- ・他者に依存せず、自分で考えて行動する。
- ・初めて経験する事柄に前向きに臨んだり、自信をもって関わったりする。
- ・自分のよさに気づき、成長への意欲をもつ。
- ・良好な人間関係を維持するために必要な礼儀を身に付け、規範意識をもつことができる。

学びの自立

- ・課題を自分のものとして受け止め、課題解決に取り組む。
- ・教員や友だちの話をよく聞き、自分の学習活動に生かす。
- ・様々な事象や事物に興味をもって関わり、楽しみながら学習を進める。
- ・自分の思いや考えを言葉で表現する。

接続期に育てたい姿

生活上の自立 幼児期(5歳児後半)

幼 児 の 姿	<ul style="list-style-type: none">・身の回りのことは自分でする。・衣服をたたむ、整理整頓をするなど、身の回りの持ち物の始末や管理ができる。・時間を意識し見通しをもって生活する。・食事のマナーを守り、好き嫌いなく食べようとする。・排便の始末が自分でできる。・和式トイレを使うことに慣れる。・早寝早起きの習慣を身に付ける。・様々な運動用具を使い、友達と一緒に工夫したり、自分の目標に向かって運動や遊びを楽しむ。・全身運動が滑らかで巧みになり、快活に飛び回り自信をもって活動する。・手先の器用さが増し、ひもを結ぶ、雑巾を絞るなどの動作ができる。・危険な物や場所や遊び方が分かり、状況を判断し気を付けて遊ぶ。・困ったときに自分から話す。
------------------	--

小 学 校 を 見 通 し た 保 育 上 の 配 慮	<ul style="list-style-type: none">・自分の身の回りを清潔にし、生活に必要な活動ができ、心地よく過ごせるようにする。 (自分の持ち物の始末、衣服の着脱や調整、食事、排泄など)・生活や活動の見通しをもって時間を意識し、自主的に生活を進められるよう工夫する。・ルールやマナーの大切さが分かり「してよいこと」「して悪いこと」「他の人が困ること」に気付き、考えながら行動する。・箸の使い方、食器の持ち方など、正しい食事のマナーが身に付けられるようにする。・園外保育等で意図的に和式トイレを使用する機会を作り、慣れるようにしていく。
--	---

保 護 者 と の 連 携	<ul style="list-style-type: none">・早寝、早起き、朝ごはんの習慣を身に付け、生活リズムを整えていくよう促す。・持ち物の準備は子どもにさせるよう言葉掛けし保護者も確認する。・自分のものは自分で持つように伝えていく。・生活のルールやマナーは園と家庭で共通の理解のもと働きかけていく。・食事の姿勢や箸の持ち方など、一緒に食事をしながら伝えていく。・傘の始末は自分でできるように見守る。・和式トイレの使い方に慣れるよう体験させていく。
---------------------------------	--

生活上の自立 児童期(1年生1学期)

児 童 の 姿	<ul style="list-style-type: none"> ・時間割に基づいた時程の中で生活する。 ・着替えや給食の準備など、決められた時間の中で活動する。 ・学習材や道具は自分で管理をするようになる。机の中やロッカーの整理、傘をたたんで傘立てに置くなど自分でする。 ・学校のきまり、授業規律のもと活動する。 ・トイレ、遊具など学校施設の利用の仕方を守って使う。 ・休み時間には、学校の遊具を使って楽しく遊ぶ。 ・体育の授業の中で、様々な運動を経験し、運動技能を身に付ける。 ・遊んだり運動したりする場所の状況、遊具の使い方を知り活動する。 ・安全に一人で登下校できる。 ・給食により、みんなで同じものを食べる。
----------------------------	---

園での経験を生かした指導上の配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・入学時は単位時間を短く設定したり、体を動かして学習したりする活動を多く取り入れるなどし、席に着いて学習する時間を徐々に増やすようにする。 ・着替えや給食の準備は、入学当初はゆとりをもって設定し、徐々に時間に合わせて活動できるようにしていく。 ・整理モデルを写真で示したり、整理を確認する時間を設けたりするなどして、持ち物についての自己管理意識を高める。 ・生活科での「学校たんけん」を通して、施設がみんなのものであり、きまりにしたがって利用することが必要であることに気付かせる。 ・生活科での「学校たんけん」の際、遊具や遊び道具の使い方について知るとともに、危険性などもイメージさせ、安全な使用について意識を高める。 ・時間にゆとりをもって配膳を行い、落ち着いて給食をとることができるようにする。嫌いなものについては、食べられそうな量を配膳するようにし、嫌いなものでも少しずつ食べてみるよう働きかける。
-------------------------	---

保護者との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・次の日の学習の準備は親子で確認して行う、嫌いなものでも食べてみる、決まった時間での着替えと衣服の始末、傘のたたみ方、立って靴を履くことなど。 ・経験の必要性について保護者と共通理解を図り、家庭でも取り組んでいく。 ・子どもの安全のために、機会を捉えて通学路を歩き、道順、危険箇所などを確認する。また、災害時の行動の仕方について親子で確認しておく。
----------------	--

精神的な自立 幼児期(5歳児後半)

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">幼 児 の 姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・聞く、話す、伝え合う姿については、発達や経験に応じて個人差がある。 ・人の話を理解しようとし、簡単な話し合いができるようになる。 ・自己主張のぶつかり合いから、自分たちで解決しようとする姿が芽生える。 ・感じたことを描いたり、作ったり、言葉にしたりして表現できるようになる。 ・相手の気持ちを感じ取り、状況に応じて、相手の思いを知るようになる。 ・困ったことやわからないことがあるときは、自ら友達や保育者に伝えたり尋ねたりする。 ・具合が悪い時やけがをしたとき、簡単にそのときの状態が伝えられる。 ・友達と協力して、互いのよさを認め合い、遊びを進めていく。 ・小動物を飼育したり、野菜や花などを栽培したり、世話をする気持ちが育つ。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">小 学 校 を 見 通 し た 保 育 上 の 配 慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや考えをグループやクラスの中で、友達に分かるように話したり、友達の話最後まで聞いたりする態度を養う。 ・感じたことや発見したことを自分なりに伝えようとすることや、友達の話聞き自分と違う考えがあることに気付くようにしていく。 ・クラスやグループで話し合う機会を徐々に増やしていく。 ・感じたことを言葉で、友達や保育者に伝えたいくなるような、心を揺さぶる体験が得られるようにする。 ・友達との考えの違いや、うまくいかない状況が起きたときには、それぞれの主張や気持ちを十分に受け止め、互いの思いが伝わるようにしたり、自分の気持ちを調整したり行動できるようにする。 ・グループ製作や劇遊びなど、目的に向かって友達と協力して取り組み、やり遂げる喜びや充実感がもてるように計画する。 ・係活動や行事の準備などで役割を果たす経験をする中で、自信をもって行動し、有用感をもてるようにする。 ・栽培活動、小動物との触れ合いを通して、生命の大切さや自然の美しさ、不思議さに気付くよう環境を工夫する。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">保 護 者 と の 連 携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大人は子どもの話を最後まで聞き、子どもも最後まで話を聞くことを理解する。 ・子どもの成長を受容的な目で見たいことを伝えていく。 ・子どもからの情報を聴くようにし、先回りして話を進めないようにする。 ・仕事を分担したり手伝ったりするなど、責任をもって手伝いなどをやり遂げ、人の役に立って感謝されるなどの経験を、家庭でもできるような機会をもつようにする。

精神的な自立 児童期(1年生1学期)

児童の姿	<ul style="list-style-type: none">・集団規模が大きくなり、生活のフィールドが広がることにより、友達、上級生、教員など人との関わりも広がる。・新しい友達や上級生に積極的に関わりながら遊んでいる。・グループでの活動場面が増え、自分の思いや考えをきちんと伝えたり、友達の思いや考えを受け止めたりしながら、協力して活動に取り組む。・自分の思いや考えを友達や教員に伝えながら活動する。・自分で活動を創り出してきた園と異なり、知識・技能の習得や決められた課題の解決に向けた学習活動に取り組むことが中心となる。・難しいと感じる課題にも取り組む。・学校や学級で育てている動物や植物に関心や愛着をもち、世話をする。
-------------	---

園での経験を生かした指導上の配慮	<ul style="list-style-type: none">・生活科での「学校たんけん」で教員、他学年の子どもたちと関わる活動を設定し、学校生活の中で多くの人たちと関わっていくことに気付かせる。・グループで活動する時に、子どもたちの意見が合わず、活動が停滞してしまうことがある。その時には、子どもたちの考えを整理し、よい考えを生かして、課題を解決するためにはどうすればよいかを一緒に考えていく必要がある。日頃から子どもたちの性格、行動傾向、人間関係を見取っていくことが大切である。・子どもの思いや考えを受け止め、そのよさをフィードバックすることにより、自信をもって活動できるよう支援する。・子どもたちの実態を踏まえた課題を提示する。・子どもたちの課題の取組状況を見取り、つまずきに合わせた支援を行う。そのため、教員が子どもたち一人一人の学習態度、思考傾向などを見取り、理解していく必要がある。・生活科での生き物の飼育栽培の中で、動植物への愛着を深めるような活動を設定する。
-------------------------	---

保護者との連携	<ul style="list-style-type: none">・対保育者という関わりを通して課題を解決する傾向が強かった保育園・幼稚園の時期と比べて、学校では子ども同士が協同することにより、学習、生活の場面における課題を解決していくことが必要となることを保護者に伝えていく。・子どもたちの関係づくりには、保護者同士のよい関係が必要である。保護者会のもち方を工夫するなどし、保護者同士が仲良くなることができるようにする。・機会を捉えて、子どもたち一人一人のよさを保護者に伝え、保護者と共有する。・保護者会など、学級の保護者が集まる場でクラスの子どもたち一人一人のよさを共有し、クラスの担任、保護者で子どもたちを支える雰囲気をつくる。
----------------	---

学びの自立 幼児期(5歳児後半)

幼 児 の 姿	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な自然体験や社会事象、遊びを通して直接見たり、触れたり、試したりする経験の中でさまざまなことに気付き、不思議さを知る。 ・遊びや生活の中で文字や数への興味や関心をもって活動する。(カルタ、トランプなど) ・絵本や紙芝居を通して想像力が豊かになる。 ・ルールのある遊びに参加する。 ・相手に分かるように伝えたり、相手の気持ちを察して自分の思いの出し方を考えたり、我慢したり、気持ちを切り替えたりしながら分かり合う。 ・生活や遊びを通して感じたことや考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由に描いたり、作ったり、演じて遊んだりする。 ・「できた」という喜びを感じ、「やってみよう」という意欲をもつ。
小 学 校 を 見 通 し た 保 育 上 の 配 慮	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な事物を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などへの興味や関心を広げていく。 ・文字や絵を使って伝えることを楽しむ活動や遊びを取り入れる。 ・自分の話したいことを素直に話せるような雰囲気をつくり、一人一人に応じて言葉を添えたり言い方を知らせたりする。 ・自分の好きな本を選んで読めるように、環境を整える。 ・絵本の読み聞かせを通じて想像力やコミュニケーションへの意欲を育むようにする。 ・季節の移り変わりを感じ身近な自然物を使った遊びが楽しめるような環境づくりをする。 ・遊びや生活を通して経験したことを、さまざまな表現方法(運動・劇ごっこ・絵画など)で表現する機会を作っていく。 ・目的に向かって取り組むことで、意欲と達成感・満足感を味わう場面をつくる。 ・一人一人の表現を大切にしながら、みんなで力を合わせて取り組む活動へと高まるようにする。
保 護 者 と の 連 携	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本の読み聞かせを通して、親子のつながりを深めるとともに知的好奇心も育てるようにしていく。 ・豊かな感性、表現する喜び、創造するきっかけがもてる機会を作るようにする。 ・親子で対話の機会を作り、その喜びを共に味わう。 ・飼育栽培を通じて、変化を親子で共有し対話をしていく。 ・子どもが歌ったり演奏したりする姿を見て、感動の喜びを子どもに伝える。 ・子どもが地域社会への関心をもてるように、家庭と地域住民との関わりを知らせていく。

学びの自立 児童期(1年生1学期)

児童の姿

- ・小学校での学習に対する高い期待のもと、意欲的に学習する。
- ・身近な自然に対して、諸感覚を使って観察したり、気付きや思いをもって働きかけたりする。
- ・自分が感じたことや考えたことを自分なりの方法で表現する。
- ・文字への関心が高まり、進んで文字や文章を読んだり、書いたりしようとする。
- ・数や形への関心が高まり、身に付けたことを生活の中で生かそうとする。
- ・自分が興味・関心をもったことについて、意欲的に話したり伝えたりしようとする。
- ・遊ぶものや遊び方を工夫して、友達と楽しみながら遊ぶ。
- ・活動のフィールドが学校、地域へと広がることにより、関わりの対象を広げ、興味・関心を高めながら学習活動に取り組む。
- ・友達と協同し、自分や友達のよい考えを活かしながら自分の課題を解決しようとする。

園での経験を生かした指導上の配慮

- ・子どもたちの興味・関心を生かした学習課題を設定したり、学習材を活用したりする。
- ・「表現する」には、子どもたちが「伝えたい」と思うような経験をすることが必要である。子どもたちの思いや考えを引き出し、子どもたちなりに満足感、充実感をもつことができるような活動を設定する。
- ・子どもたちが「表現したい」「作りたい」と思った時に取り組むことができるよう、活動に必要な道具や材料を身近に整えておく。
- ・子どもたちの表現のよさをほめたり、それを他の子どもたちにも教員が伝えたりする。
- ・子どもたちが対象にじっくり関わって、感じたり考えたりすることができるような時間配分を工夫する。
- ・絵本だけでなく、低学年向けの物語や子ども向けの新聞など、生活の中で子どもたちが文字や文章に触れることができるような環境を設定する。
- ・学習したことを学校生活の場で生かす場面を設定する。
- ・子どもたち同士が協同して課題解決に取り組む場面を設定する。その際、教員は子どもたちの活動の様子を見取り、適時助言するなど、活動を促していくために必要な支援を行っていく。
- ・子どもたちの活動のフィールドを広げるため、教員が学校や地域の特色を調べ、把握し、学習活動に反映させていく。

保護者との連携

- ・日頃から、保護者が意識して季節の移り変わりなど身の回りの変化に目を向け、子どもと一緒に感じたり考えたりすることが必要であることを伝える。
- ・学校で学習したことを、クラス便りなどを通して保護者に伝え、家庭生活においても、その活用場面を設定し、実際に取り組んでもらうよう働きかける。

園と家庭及び地域社会との連携・協力

園と小学校と家庭（保護者）及び地域社会との連携・協力については保育所保育指針・幼稚園教育要領・教育基本法すべてに記載されています。

園とそこに通う保護者が「共に子どもを育てていく」という視点に立って、共に連携し、「子どもの生活の充実と活性化を図る」ことへの取組を展開していくことが必要です。

小学校入学に際し、保護者が不安に思う事項について、園が話し合いや情報提供をすることを通して解消するよう努めていくことが求められます。

また、小学校は学校生活を不安なく過ごせるよう入学前の保護者対象の説明会、学校施設見学や学校生活の説明会など、保護者が学校生活を理解する取組を行っています。

保護者との連携（小学校説明会資料例）

（1）自分のことは自分でできるように

- 人の手を借りずに衣服の脱ぎ着ができる。
- 脱いだ衣服がたためる。
- 紙を折ったり、学用品など自分の持ち物を整理したりできる。
- 洗面・歯みがき・手洗い・トイレの後始末ができる。
 - ◇ ズボンを脱がないで和式トイレが使える。
 - ◇ まわりを汚さないで排せつができる。
 - ◇ 手洗い石けん・トイレトペーパーが上手に使える。
- 雨傘の始末ができる。
- 登校の準備をして気持ちよく一日をスタートする。

（2）自分のことを相手に話したり、伝えたりできるように

- 自分の名前がはっきり言える。
- 返事やあいさつがはっきりと大きな声で言える。
- 話す相手の顔を見て、話を最後までしっかり聞ける

（3）誰とでも仲良く遊べるように

- 友達と一緒に何かをする機会を増やす。（できるだけ、戸外で体を使って元気に遊ぶ。）
- 「ありがとう」「ごめんなさい」が素直に言える。
- わがままや人の嫌がることを言って、みんなに嫌な思いをさせない。
- 「ぼくもいれて!」「わたしもいれて!」と気軽に言える。

(4) みんなと楽しく食事をすることができるように

- 20分くらいで食べ終わる。
- 食事の準備、後片付けができる。
- 座って食べる。
 - ◇ 立ち歩いたり騒いだりしない。
 - ◇ 口にものをいれたまましゃべらない。
- 食器、はし、スプーン、フォークが正しく持てるようにする。
- 何でも食べられるようにする。
 - ◇ きらいなものでも少しずつ食べられるようにする。

(5) できるだけ経験の幅を広げ、生活の力をつけるように

- ・～・～・押しつけではなく、子どもの興味を大切にし、育てていく・～・～・
- 食事の支度・片づけ・掃除・洗濯物たたみ・買い物など、家族の役に立つ仕事ができる。
- 柑橘類の皮むき・袋の口開けなどができる。
- はさみやのりなど、いろいろな道具が使える。
- 紙を折る・切るなどができる。
- 鉛筆やクレヨンで、絵や線を書くことができる。

(6) 通学路を覚える

- 親子で通学路を歩いて道を覚え、子どもが一人で歩けるように何度か練習しましょう。
 - ◇ 子どもの目の高さで、危険な所や交通標識を確認しながら歩いてみましょう。
 - ◇ 信号の見方・道路の横断の仕方などを教える。
 - ・ 同じ道でも行きと帰り、自転車の後ろに座ってみる景色とは違って見えます。
 - ・ 大人には見える物も、子どもの目の高さでは見えないことが結構あります。
 - ◇ 登校にかかる時間を計る。
 - ・ 入学後は、登校時刻（8時10分～8時20分）に学校に着くように家を出てください。

(7) 学習への興味・関心を大切にする

- ・～・～・ひらがなや数字は、入学後正しく学習しますので、
無理に教える必要はありません。・～・～・
- 自分の名前が読める、ひらがなで書ける。
- 絵本の読み聞かせなど、一定の時間、話に集中することができる。
- 生活体験をより豊かにする。

園と小学校との連携・交流活動事例

遊びや生活を通して総合的に学ぶ幼児期の保育・教育活動から、教科学習を中心に系統的に学ぶ小学校教育へ円滑な接続を図っていくためには、保育者と小学校教員が、子ども理解や互いの教育内容の理解を深めていくことが大切です。

園と小学校の交流にあたっては、交流計画について保育者と教員が十分に話し合い、幼児、児童それぞれのねらいを明確にし、交流の流れ、指導上の留意点を深めながら、互惠性のある交流にしていくことが必要です。また、実施後には、子どもにとっての交流の成果、指導の在り方、課題などを整理し、保育者と教員が共に評価しながら相互理解を深め、その後の交流活動や日常の指導に生かしていくことが大切です。交流・連携の意義を踏まえ、計画的に実施していくよう、それぞれの保育・教育課程に位置付け、園と小学校が組織的に取り組んでいくことが望まれます。

<園と小学校との連携・交流の意義>

○幼児・児童にとって

幼 児 ◇幼児が身近な存在である児童に憧れの気持ちを持ち、未来に期待や目標をもてる体験となる。

◇様々な刺激を受け、体験が広がる。

◇小学校生活への期待が高まる。

小学生 ◇お兄さん、お姉さんとして、自分より幼い相手に対し、優しさや思いやりの気持ちを発揮する機会となる。

○保育者・教員にとって

◇保育・授業参観や合同の研修などを通して、保育や教育の在り方を相互理解することができる。

◇交流場面において、幼児・児童の新たなよさを見出す機会となる。

◇保育者、教員が互いの指導から学び、自分の保育や指導に活かすことができる。

荒川区では幼児の施設と小学校との交流活動が行われています。それぞれの施設や学校の実情に応じ、具体例を記載します。交流内容は、大きく4つに分かれ「幼児と児童の交流」「保護者への啓発」「保育者・教員の交流」「地域の年長児同士の交流」の活動事例です。これらを参考に、各園・各学校、各地域の実情に合わせて交流・連携を進めていってください。

事例 1 11月 幼稚園5歳児と小学校1年生の交流

1年生と一緒に遊ぼう！

ねらい		
<p><幼 児> ・1年生と関わり、憧れの気持ちをもって、より親しみを感じたりする。</p> <p>・交流活動を通して、小学校生活への期待を高める。</p> <p><児 童> ・幼児と関わる中で交流する楽しさや伝える嬉しさを感じ、自身の成長に気付く。</p>		
事前の取組		
<p>・園、小学校で目的を共有した上で日程調整、活動内容について協議する。</p>		
時間	幼児の活動	指導上の留意点（保育者）
10:15	○幼稚園から徒歩で小学校へ向かう。	
10:30	○小学校の体育館へ集合する。	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生と対面し気持ち良く挨拶をする。 ・園との違いに気付くように声を掛ける。 ・他の学年が授業中であることを説明し静かに移動するように促す。
	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生と挨拶を交わす。 ・始めの言葉を聞く。 ・1年生と2～3人組になる。 ・小学校内を見学する。(図書館・屋上・学年の教室) 	
11:00	○教室で1年生とふれあう。	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生と言葉を交わすことで小学生への親しみや憧れの気持ちをもてるようにする。 ・小学生の誘いに積極的に関わられるように声を掛ける。 ・気持ちを込めてお礼の言葉が伝えられるようにする。
	<ul style="list-style-type: none"> ・4～5人のグループに分かれてゲームカルタ取り・ランドセルを背負うなどをローテーションしながら関わる。 ・感想を発表したり、小学生に質問をしたりする。 ・終わりの言葉を聞く。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○お礼の品を1年生に渡す。 ・お礼の言葉を言う。 ・挨拶をする。 	
11:45	○園に戻る。	
事後の評価・反省		
(保育者)		
<ul style="list-style-type: none"> ・園と小学校の交流の機会は少なく年1回程度である。今後、回数を検討し小学校との連携がスムーズにいくように考えていきたい。 ・小学校の様子を知り、1年生と関わることで進学に対する喜びや期待を高める良い機会だと思った。 ・教員との交流を通して、相互理解を深めることも大切だと思った。 		

事例 2 保育園5歳児と1年生の交流

1年生と一緒に遊ぼう！ 小学校の先生の話を知ろう

<p>ね ら い</p> <p><幼 児> ・いろいろな児童と関わりながら一緒に遊ぶことを楽しむ。</p> <p style="padding-left: 20px;">・教員や児童の話、興味をもって聞く。</p> <p><児 童> ・自己紹介やゲームをし、園児との関わりを楽しむ。</p>		
<p>事前の取組</p> <p><保育者・教員> ・ゲームの内容や進め方、司会について教員と保育者が事前に十分検討しておく。</p> <p><児 童> ・紅白帽子・自己紹介用カードの準備</p> <p><幼 児> ・カラー帽子・自己紹介用カードの準備</p>		
時間	○幼児 ●児童の活動	指導上の留意点 ○保育者 ●教員
10:00	<p>○●小学校体育館に集合する。</p> <p>●係の児童が挨拶をする。</p>	<p>●教員の自己紹介をする。</p> <p>一緒に遊ぶことが楽しみになるような言葉をかける。</p> <p>○●自分から進んで声を掛けられない児童、幼児に必要なに応じて声を掛けたり、一緒に動いたりする。</p> <p>児童、幼児の様子をみて、ある程度の時間で自己紹介を区切る。</p>
10:05	<p>○●教員の話を知る。</p> <p>○●自己紹介カードを集める。</p> <p>・違う色のカードを持った子と自己紹介を合い、カードを交換する。</p> <p>・自分の持ちカードが終わったら集合時の場所に戻って座る。</p>	
10:15	<p>○●保育者の話を聞く。</p>	<p>○「猛獣狩りにいこうよ」のルールを説明する。</p> <p>1つのグループに児童と幼児の両方が入っていないといけないというルールで行う。</p> <p>色々な人数でグループが組めるようにする。</p>
10:20	<p>○●「猛獣狩りにいこうよ」をする。</p> <p>・保育者が言った動物の文字数と同じ人数で輪を作って座る。</p>	
10:35	<p>○●教員の話を知る。</p> <p>●本時の感想を言う。</p> <p>○本時の感想を言う。</p> <p>○お礼を言う。</p> <p>●係の児童が挨拶をする。</p>	<p>●児童の幼児への接し方や幼児の感想を捉え、具体的に話す。</p>
10:45	<p>○●教室・保育室に戻る。</p>	
<p>事後の評価・反省</p> <p>(保育者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児は児童や教員の話をよく聞き、自己紹介やゲームを楽しんでいた。 ・幼児は「○○○○くんという名前だった」「私は○○○○さんだった」と盛んに名前を言っていた。「また一緒に遊びたい！」という感想が多く聞かれた。 <p>(教 員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児との関わり方に工夫がみられ、自己の成長についての実感が高まった。 ・受容的態度で接していた。 		

事例 3 2月 幼稚園5歳児と小学校1年生の交流

1年生と一緒に野菜を育てよう！ ～収穫して、食べよう～

ねらい		
<p><共通>・一緒に育てた野菜の収穫を喜び、会食を楽しむ。</p> <p><幼児>・1年生と一緒に会食することを通して、小学生や小学校という場を身近に感じる。</p>		
事前の取組		
<p><保育者>・大根の生長が分かる資料を準備しておく。園クイズを用意していく。</p> <p><教員>・幼児が小学校を知ることができるクイズを考えておく。</p>		
時間	○幼児 ●児童の活動	指導上の留意点 ○保育者 ●教員
9:35	<p>●小学校のランチルームに集合する。</p> <p>・種まきをしたグループでまとまって座る。</p> <p>○ランチルームに行く。</p> <p>○児童に挨拶をする。</p> <p>○●教員・保育者の話を聞く。</p> <p>○●お盆をテーブルに運ぶ。</p>	<p>○大根料理（大根と大根の葉の味噌汁）・紙コップ・プラスチックフォーク・大根の生育についての絵カード・クイズ用色画用紙の用意</p> <p>●本時の活動の説明をする。</p> <p>○大根の生長の過程や経緯を視覚的な教材を用いながら伝え、大根の生長の仕方について再確認したり、みんなで大切に育ててきたことを振り返ったりできるようにする。</p> <p>○●会食の様子を見守る。野菜が苦手な幼児も無理なく食べられるように声を掛ける。</p> <p>○●お互いの生活に興味をもてるような言葉を掛ける。また、自分たちで考えたクイズで遊ぶ面白さに共感していく。</p>
9:50	<p>●いただきますの挨拶をする。</p> <p>○●大根の味噌汁を食べる。</p>	
10:00	<p>○●レクリエーションをする。</p> <p>・○×クイズ (小学校クイズ2・園クイズ2)</p>	<p>●次回の活動（授業参観・ふれあい給食）に期待がもてるように話をする。</p>
10:15	<p>●本時の感想を言う。</p> <p>○本時の感想を言う。</p>	
10:20	<p>○●教員の話聞く。</p> <p>○●教室・保育室に戻る。</p>	
<p>事後の評価・反省</p> <p>(保育者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児は種まきから収穫まで体験したことで、野菜の生長を児童と共に共有することができた。 ・野菜の嫌いな幼児も、自分が育てた野菜であるため喜んで食べていた。 ・レクリエーション（小学校クイズ）では園児が小学校を身近に感じるすることができた。 <p>(教員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培、収穫、調理等、連続性のある活動の交流を行ったことにより、感動を共有したり、互いの思いに共感したりする貴重な機会となった。 		

事例 4 11月 こども園5歳児と5年生の交流

学校図書館で絵本を見よう(5歳児)・ 幼児に絵本の楽しさを伝えよう(5年生)

ねらい
<p><幼 児> ・学校図書館で本を借りる経験を通して、本への親しみを増す。</p> <p>・学校の様々な施設を知り、小学校への期待をもつ。</p> <p><児 童> ・園児が楽しめる絵本を選び読むことを通して、交流を深めていく中で幼い子に対する思いやりの気持ちを育む。</p>

事前の取組
<p><保育者・教員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の交流を踏まえ、今回の計画について職員間で打合せの会をする。 ・5年生は幼児に読み聞かせする絵本を選んでおく。 ・幼児、児童共に事前にグループ分けをしておき、交流に期待をもたせる。


時間	○幼児 ●児童の活動	指導上の留意点 ○保育者 ●教員
9:35	○●5年生代表が園に迎えに行く。	
9:40	●はじめの会の進行をする。 ・校長先生の話 ・園長先生の話 ・5年生による本日の説明	●○事前に決めておいたグループごとに並ぶよう促す。
9:45	○●5年生と幼児でグループを作る。 ●5年生が事前に選んでおいた絵本を幼児に読む。	●○互いのグループが近づきすぎないように、絵本を読む場を広げるよう促す。
9:55	○学校図書館にある本の中から5年生に読んでもらう絵本を選ぶ。 ○5年生に絵本を読んでもらう。 ●図書の前借り方を教える。 ○絵本を選び、5年生と一緒に絵本を借りる体験をする。	●○保育者・教員が、幼児・児童に声を掛け、5年生と幼児をつなぐきっかけとなるよう関わる。 ○図書館司書の協力を得て、絵本を借りる体験や5年生に教えてもらうことを通して、小学校への期待が高まるよう幼児に声を掛ける。
10:20	●おわりの会の進行をする。 ○●さようならの挨拶をする。	
10:25	●5年生児童の代表が園に見送る。 ○園に戻る。	●次回の交流活動への期待を高めるようまとめる。



事後の評価・反省 (保育者)
<ul style="list-style-type: none"> ・幼児は普段の姿とは違い、5年生の読み聞かせを静かに聞いていた。 ・園の絵本環境と違い、学校図書館の本の多さに驚きながらも喜んで絵本を探していた。 ・5年生が絵本の借り方を丁寧に教え、幼児は緊張しながらも絵本を借りる体験ができた。



事例 5 2月 こども園5歳児と5年生の交流

小学校を探検しよう(5歳児)・小学校を紹介しよう(5年生)

<p>ね ら い</p> <p><幼 児> 学校の様々な施設を知り、小学校への期待をもつ。</p> <p><児 童> 今年度で交流を深めてきた相手にお別れの気持ちを伝える。</p> <p>来年度、小学校に入学する予定の園児に対して、励ましの気持ちを伝える。</p>		
<p>事前の取組</p> <p><保育者・教員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の計画について職員間で打合せの会をする。 ・幼児、児童共に事前にグループ分けをしておき、交流に期待をもたせる。 <p><児童></p> <ul style="list-style-type: none"> ・5年生実行委員が計画を立てる。各係を決めておく。 		
時間	○幼児 ●児童の活動	指導上の留意点 ○保育者 ●教員
9:35	○●5年生代表が園に迎えに行き、一緒に屋上に移動する。	
9:40	●はじめの会の進行をする。 ・5年生による本日の説明	○●事前に決めておいたグループごとに並ぶよう促す。
9:45	○●5年生と幼児でグループを作る。 (5年生が2人、園児が2人の4人グループになる)	○●前回の活動の時と同じ幼児、児童でグループを作るようにする。
9:50	●○4人グループで学校探検をする。 教室・体育館・音楽室・保健室・職員室給食室など	○教員、職員の協力を得て、学校施設を探検し、小学校への期待が高まるよう園児に声を掛ける。
10:15	●さよならの会の進行をする。 ・体操「タイムマシンにのって」 ・校長先生、園長先生の話 ・幼児から5年生への言葉 ○●さよならの挨拶をする。	●新学期には1年生として入学する幼児を、6年生になった自分たちが迎えることを話し、それぞれの期待を高めるようまとめる。
10:25	●5年生代表児童が園に見送る。 ○園に戻る。	
<p>事後の評価・反省</p> <p>(保育者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5年生との継続した交流活動は、幼児が5年生に親近感をもって活動していた。 ・幼児は緊張しながらも、学校探検の活動に参加していた。 <p>(教員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の様子に合わせて、分かりやすく教えたり接したりすることができた。 		

事例 6 6月 保育園5歳児とその保護者

小学校の学校図書館で絵本を見よう(5歳児)・校長先生の話进行こう(保護者)

ねらい		
<p><幼 児> 幼児とその保護者が小学校の施設や教職員に接することを通して、学校環境を知り小学校生活への期待を高める。</p> <p><保護者> 小学校入学に向けて、小学校生活への理解を深める。</p>		
事前の取組		
<p><保育者>・幼児に小学校にはいろいろな施設があり、様々な教職員がいることを話し、小学校訪問への期待感を高める。</p> <p>・保護者に、園だよりや掲示で日程、時間、内容、参加の仕方を周知する。</p> <p><教 員>・小学校生活への理解を図るため、保護者向け資料を作成する。</p>		
時間	幼児・保護者の活動	保育者・教員の援助
9:30	親子で小学校に行く。 ・挨拶をする。 ・校長先生の話聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちのよい挨拶をしたり、状況に応じた返事をしたりする大切さを伝える。 ・決まりや約束事を守ることの大切さに気付いていくように援助する。 ・緊張している子、興奮している子など、様々な子どもの気持ちに寄り添い援助していく。 ・絵本の整理の仕方を知り、園生活においても同じように取り組むよう伝え、就学までに身に付くようにする。
9:40	小学校を見学する。  ・小学校の様々な施設（教室、図書室、保健室、音楽室、調理室など）を見る。	
10:00	学校図書館を利用する。(幼児のみ) ・図書館司書の方から話を聞く。 ・絵本、図鑑等を見る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">・保護者は別室で校長先生と懇談する。</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・入学に向けて保護者の疑問、不安等が軽減できる機会にする。 ・入学までに保護者が認識しておくことを伝え、相互理解を図る。 </div>
10:30	片づけ 感想を発表する。  トイレを利用する。 校長先生に挨拶をする。 園に親子で戻る。	
事後の評価・反省		
<p>(保育者)・園の絵本に触れる際、「これと同じ本、学校にあったよね」などの言葉が聞かれたり、子どもたち同士で小学校の話をしたりしていた。</p> <p>(保護者)・小学校の見学ができてよかった。入学前に「学校ってこんなところなんだ」と子どもたちが分かってよかった。</p>		

事例 7 10月 音楽の体験授業

小学校の音楽室でリミックスの授業を体験しよう（幼児）

小学校の授業を幼児と一緒に体験しよう（保護者）

<p>ね ら い</p> <p><幼 児> 小学校における学習を体験することにより就学に対しての憧れや期待を膨らませる。</p> <p><保護者> 授業を共に受けることで、小学校生活に対する理解を深める。</p> <p><教 員> 授業を通して幼児の実態を知る。</p>		
<p>事前の取組</p> <p><保育者> ・小学校の音楽室で授業を受けることを幼児に伝えるとともに、音楽の授業の内容を話して興味や関心をもたせる。</p> <p>・保護者に対して授業を受ける活動のねらいを伝え、保護者が共に授業を受けることを周知する。</p> <p><教 員> ・幼児が園で親しんでいる音楽や曲を把握しておく。</p>		
時間	幼児の活動	指導上の留意点 ○保育者 ●教員
13:40	<p>小学校で学習することを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時について見通しをもつ。 ・小学校音楽室に移動する。 	<p>○事前予告をすることにより、活動への意欲がもてるようにする。</p> <p>●教員が自己紹介をする。</p>
13:45	<p>音楽の学習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室での決まりを知る。 ・リズム遊びをする。 ・旋律遊びをする。 ・親子リトミックをする。 ・園で歌っている歌を歌う。 ・楽器遊びをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1時間の流れを説明し、安心して活動に臨める雰囲気づくりをする。 ・遊びながら楽しく音楽の学習ができるよう、教材を工夫する。 ・保護者が参加できる活動を準備し、安心して音楽活動に参加できるよう配慮する。
14:15	<p>本時を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感想を言う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●就学に希望を抱くことができるよう、明るい雰囲気の中で、振り返りを行う。 ●保護者からも感想をいただく。
14:30	<p>園に帰る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次の交流学习の予定を知る。 	<p>○次回に期待をもつことができるよう配慮する。</p>
<p>事後の評価・反省</p> <p>（保育者）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児からは「楽しかった」「また行ってみたい」という感想が多く聞かれた。教員の授業には緊張しながらも、指示を理解し、学習への興味・関心が高まったようである。 ・保護者からは、「授業体験を通して小学校の授業の進め方を知ることができた」「子どもと楽しく参加できた」などの感想があった。 		

事例 8 10月 園の保護者会

1年生の生活・学習について話を聞こう(保護者)

<p>ね ら い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校入学当初の生活や学習について知り、2学期の子どもたちの姿と育ちから、家庭での子どもへの関わり方に気付いたり考えたりする。 		
<p>事前の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者会の内容を事前に、園より保護者に周知する。 ・近隣小学校と日程を調整し、打合せを行う。 ・事前に保護者からアンケートを取り、保護者の関心や疑問などを把握しておく。 		
時間	流れ	留意事項
13:00	<ul style="list-style-type: none"> ・園長挨拶 ・担任の話 現在の子どもの姿と育ち 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会のねらいを説明する。 ・担任からは、2学期後半から3学期の子どもの姿を具体的に分かりやすく伝える。
13:15	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校長の話 小学校の生活について <ul style="list-style-type: none"> ・入学に向けて大切にしてほしいこと ・入学までに身に付けておきたいこと 小学校の学習について <ul style="list-style-type: none"> ・1年生の学習について 給食について 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校生活に大切なこと、入学までに身に付けておきたいこと、学習、給食等、小学校入学期に行われている指導内容について説明する。 ・併せて資料を配布する。
14:00	<ul style="list-style-type: none"> ・質疑応答 ・まとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の不安や疑問について答える時には、園と小学校のつながりについても伝える。
<p>(保護者の感想)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校入学時(4月・5月)の生活について不安に感じていたが、具体的な内容を聞くことができ安心した。 ・身の回りのことを自分ですることや起床・就寝・食事の時間など、子どもの側に立って家庭での生活を見直していきたい。 <p>(評価・反省)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感想にもあるように、実際に小学校長から話を聞くことで、小学校入学に対して不安を感じていた保護者も安心できたようだ。 		


事例 9 2月 園・小・中の教職員交流

授業参観、意見交換会

ね ら い <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校の授業を参観し、児童の姿や小学校入学後に児童が取り組む活動や生活に関わることを話し合うことで、保育者・小中学校教員との相互理解を図る。 		
事前の取組 <ul style="list-style-type: none"> ・ 事前の日程調整を教育委員会が行う。 ・ 各学校より地域・園等に授業参観、意見交流会を周知する。 		
時間	流れ	留意事項
13:30	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業を参観する。 (1年生から6年生の授業を公開) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1単位時間参観する。
14:15	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会議室に移動する 	
14:30	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園、小学校、中学校教員との懇談会 ・ グループに分かれる ・ 自己紹介 ・ 幼児、児童の様子と生活について意見交換を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園、小学校での一日の過ごし方や活動など、園と小学校との違いについて具体的な例をあげて伝える。 ・ 園の生活、幼児の実態、身に付いている基本的な生活習慣について情報を交換する。
15:30	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園に戻る 	
(懇談の内容) <ul style="list-style-type: none"> ・ それぞれの施設での幼児、児童の様子を出し合う。 ・ 一日の過ごし方、課題への取り組み方、生活の流れなど、教育活動に違いがあることを話し合う。 ・ 各園、各学校で大切にしていることを伝え合う。 ・ 園から小学校へのつながりの中で、現状からどのように育てるかを話し合う。 		

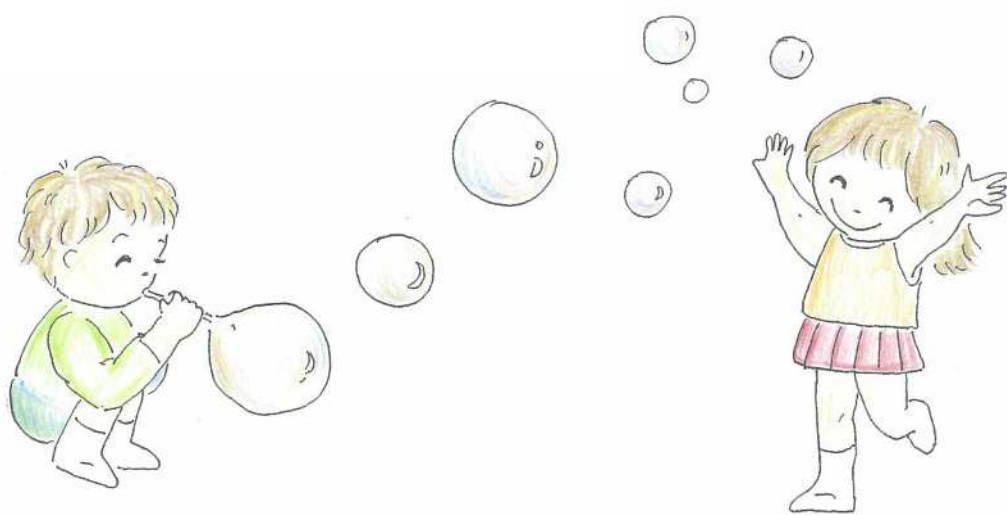
事例 10 保育園5歳児と幼稚園5歳児の交流

保育園児と幼稚園児と一緒に遊ぼう

ねらい		
(幼 児) ・遊びを通して交流を図り、就学へのつながりを築く。 ・同じ地域に住む他園の友だちに親しみをもって一緒に遊ぶ楽しさを味わう。 ・他園の幼児と交流する中で、様々な人と関わる楽しさを知る。 (保育者) ・保育者の交流も深め、互いの幼児の姿を知り、保育・教育に活かす。		
事前の取組		
・一緒に活動することで双方にとって意義のある交流活動となるよう、継続的に取り組み、交流が深まるように計画する。 ・交流をもつ機会や方法を話し合う。		
時間	幼児の活動	幼児の姿
10:00	<ul style="list-style-type: none"> ・実施場所に集合する。 ・自己紹介をする。 ・準備体操やゲーム等でウォーミングアップをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・初めは幼児同士の交流は少なかったが、次第にふれ合う姿が見られ、言葉を交わす様子など楽しさを共有した思いが行動としてあらわれていた。 ・自己紹介では、顔や名前を知る良い機会であり互いを意識しながら話を聞いていた。 また、同じ学校へ行く幼児がいることを知り関心を示していた。 ・交流を通して、互いに教えあう場面や会話する場面がたくさん見られ、関わりの中で深まる姿が見られた。
10:30	<ul style="list-style-type: none"> ・サッカーの試合をする。 <div style="text-align: center;">  </div>	
11:00	<ul style="list-style-type: none"> ・終了 	
成果		
<ul style="list-style-type: none"> ・年度が始まってすぐに、交流担当者同士が話し合う機会をもつことで、年間を見据えた計画を立てることができて有意義だった。 ・幼児同士が互いに挨拶や言葉を交わすことができるようになり、親しい関係が育まれた。 ・計画的に交流をすることで、幼児同士が期待をもち、次への交流への意欲が高まった。 		
今後の課題		
<ul style="list-style-type: none"> ・今後もより有意義な交流活動ができるよう、引き続き連携を図っていく。 ・交流実践を共に振り返り、良かったところ、取り入れていきたいことなどの意見交換を行っていく。 		

V 荒川区の重点的な取組

- 1 絵本の活用について—絵本のカリキュラム—
- 2 地域との交流—交流実践事例—
- 3 子どもの貧困・虐待に関する取組



1 絵本の活用について（絵本のカリキュラム）

乳幼児期の絵本体験や小学校での読書体験は、子どもたちの豊かな心を育むために大切なものです。子どもにとって読書とは、「言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きていく上で欠くことのできないもの」です。（子どもの読書活動の推進に関する法律）

乳幼児期に、身近な人から絵本などを読み聞かせてもらう体験は、子どもたちの聞く力や集中力を養うとともに、親しい人と感動を共有することで子どもたちの豊かな感性が培われます。

赤ちゃんの時期に、子守歌やわらべうたで人の声のあたたかさをたっぷり経験した子どもたちは、絵本に興味をもち、安心できる大人とのやりとりを楽しむようになります。言葉をどんどん獲得していく2歳児頃には、子どもたちに身近なものの絵本がイメージを育て、言葉でのやりとりをさらに楽しいものにします。幼児になると物語の世界を楽しむようになり、5歳児にもなると、相手の気持ちを思いやる感受性も育ち、主人公と同化して喜びや悲しみに共感します。人への愛情や思いやり、自分の生活に関係のあるさまざまな人への親しみなど、人間関係を構築していく力も絵本を通して獲得していきます。

幼い頃に、本当に美しいものや、心からの感動に出会うことが、子どもたちの情操を豊かにし、表現力を養います。直接体験に加えて絵本によって豊かなイメージを育むことは言葉の感性を養い、豊かなイメージをもって獲得された言葉は思考力を培い、豊かな人間性の根っこ、「生きる力の基礎」となります。

就学前教育の中で、絵本を重要なものと位置づけ、活動に取り入れていくため、本プログラムでは、発達過程に沿った絵本を選定し、各年齢の「カリキュラム例」に「遊び・教材・絵本」の欄を設け記載するとともに、「絵本のカリキュラム」として一覧にしました。

選定にあたっては、次のような観点を基準にしています。

- ・文章が日本語として美しく、かつ表現がその年齢の言葉の発達に適しているもの
- ・絵の表現が芸術的に評価でき、いきいきと物語の流れを表現しているもの
- ・文と絵の相乗効果で物語の内容を表現していて不可分な総合芸術となっているもの
- ・テーマや主人公が、子どもたちにとって親しみがもて同化して楽しめるもの
- ・子どもたちの興味や知的好奇心を満たすもの（3歳以上児の科学絵本）
- ・実際にその年齢の子どもたちに読んでみて反応がよかったもの
- ・長年、子どもたちに選ばれ読み継がれてきた絵本であるという観点から、一部を除き初版から20年以上を経た絵本

年齢の基準はあくまで参考で、その年齢にしか適さないというものではありません。絵本には、基本的には年齢の下限はあっても上限はありません。同じ絵本も、読み取り方は一人一人違って当然ですし、年齢を超えて繰り返し読まれる絵本がいい絵本だといえます。

保育の場での絵本の読み聞かせを通して、楽しく面白く、ワクワクする絵本を皆で楽しんだあとの余韻にひたるひとときを大切にしたいものです。

絵本のカリキュラム — 発達過程にそった絵本 —

	0歳(～12か月未満)	1歳児	2歳児
	愛着、基本的信頼感を育む	コミュニケーションを楽しむ	自我の育ちを受け止める
言葉・心・コミュニケーションの発達と絵本	<p><～6か月未満></p> <ul style="list-style-type: none"> 視覚や聴覚など感覚の発達がめざましく、泣く、笑う、喃語などで自分の要求を表現しこれに応答的に関わる特定の大人との間に情緒的な絆が形成される。 <p><6か月～12か月未満></p> <ul style="list-style-type: none"> 自分と相手(物)の二者関係から、自分—相手—物という三項関係が成立。絵本の楽しみを読み手の大人と共有して楽しむようになる。 人の声のあたたかさをたっぷり経験することや、まわりの大人のやさしく応答的な関わりが、将来のコミュニケーションや言葉の基礎となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵本の中の食べ物の絵を、本物に見立てて食べる真似をしたり、見立て・つもり遊びがさかんになる。2歳頃までには二語文を話すようになる。 象徴機能が発達し、言葉を獲得していくこの時期、絵本の体験が子どもたちのイメージと言葉を豊かにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉の数が飛躍的に増え、自分の意思や欲求を言葉で表すことができるようになる。 自我の育ちの表れとして強く自己主張するが、思い通りにならないとかんしゃくを起こすこともよくあるこの時期、絵本を楽しむことは、子どもたちの心を安定させるとともに、まわりの世界への認識力を高める。
絵本選びの視点	<p><～6か月未満></p> <ul style="list-style-type: none"> 絵本の前段階として、わらべうた・こもりうたなど人の声の心地よい体験 <p><6か月～12か月未満></p> <ul style="list-style-type: none"> 身近な物の絵本や、擬態語などによるリズムカルな言葉が楽しい絵本 	<ul style="list-style-type: none"> ○繰り返しと簡単な展開があり簡単な言葉のやりとりが楽しめる絵本 ○軽快な言葉の響きや鮮やかな色彩により、イメージをふくらませることができる絵本 	<ul style="list-style-type: none"> ○繰り返しや言葉のリズムが楽しめる絵本 ○自分と同じと、主人公に共感できる絵本 ○身近な物への興味を広げる絵本 ○イメージをふくらませて楽しめる絵本
絵本(題名)	<p>いないいないばあ</p> <p>じゃあじゃあびりびり</p> <p>おつきさまこんばんは</p> <p>ごぶごぶごぼごぼ</p> <p>てんてんてん</p> <p>おさじさん</p> <p>おーい はーい</p> <p>いいおかお</p> <p>がたんごとんがたんごとん</p>	<p>どうぶつのおやこ</p> <p>かおかおどんなかお</p> <p>きゅっきゅっきゅつ</p> <p>くつついた</p> <p>よくきたね</p> <p>でてこいでてこい</p> <p>くつくつあるけ</p> <p>とつとことつとこ</p> <p>まるくておいしいよ</p> <p>あめかな!</p> <p>こんにちはどうぶつたち</p> <p>ころころころ</p> <p>くだもの</p> <p>おふろでちゃぷちゃぷ</p> <p>いただきまあす</p> <p>ねこがいっぱい</p> <p>いぬがいっぱい</p> <p>ここよここよ</p> <p>おててがでたよ</p> <p>じどうしゃ</p> <p>でんしゃ(パートン)</p> <p>だれかな?だれかな?</p> <p>ぎゅうってだいすき</p> <p>どうすればいいのかな</p>	<p>ぼくのクレヨン</p> <p>しろくまちゃんのホットケーキ</p> <p>たまごのあかちゃん</p> <p>ねないこだれだ</p> <p>おにぎり</p> <p>はらぺこあおむし</p> <p>もこもこもこ</p> <p>いるいるだあれ</p> <p>しゅっぱつしんこう</p> <p>おかあさんといっしょ</p> <p>ちいさなねこ</p> <p>やさい</p> <p>うずらちゃんのかくれんぼ</p> <p>おばけがぞろぞろ</p> <p>コッコさんのおみせ</p> <p>ちいさなうさこちゃん</p> <p>はけたよはけたよ</p> <p>おやすみなさいおつきさま</p> <p>おやすみなさいのほん</p> <p>だるまさんが</p> <p>わにわにのおふる</p> <p>みんなうんち</p> <p>さつまのおいも</p> <p>ちよっとだけ</p> <p>ぐりとぐら</p>

	3歳児	4歳児	5歳児
	自立心を育む	自発性や意欲を育てる	主体性と社会性を育てる
言葉・心・コミュニケーションの発達と絵本	<ul style="list-style-type: none"> 言葉の数が増え、日常の会話にはほぼ不自由しなくなる。身近な環境への知的好奇心もふくらみ、「なぜ?」「どうして?」と、さかんに質問する。 自我がよりはっきりしてくる。平行遊びから少しずつ友達との遊びを模倣したり、道具を仲立ちとして関わっていくようになる。 この時期、保育者や友達と一緒に絵本を楽しむことはイメージを共有する喜びになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分と他者との区別がはっきりするとともに、自意識が芽生え、時にそれが心の葛藤となる。 心の揺れ動くこの時期に、いつでも安心して戻れる場所があることが大切。無条件に愛されていることを再確認できるような絵本を読んでもらうことで、安心し、自己肯定感が育まれる。 自然や物との関わりの中で体験したことを絵本の世界でさらに深く追体験することで、知的好奇心や創造力が豊かになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の気持ちを理解しようとする感受性をもつようになり人の役に立つことを喜びと感ずるようになる。 5歳児後期ともなると、自分の内面への思考が深まり、幅広く絵本や童話の世界を楽しむことで、言葉や想像力、内面の豊かさを培い、それを基礎として社会性や協調性が育まれる。 想像を膨らませ、主人公と同化して物語の世界を楽しむようになる。絵本の楽しみは思考を深め、自分の気持ちを表現するとともに、相手の気持ちを押し量る力となる。
絵本選びの視点	<ul style="list-style-type: none"> ○主人公に自分を同化して楽しめる、日常の生活を題材にした絵本 ○保育者や友達と一緒に見ながらやりとりが楽しめる絵本 ○簡単なストーリー展開を楽しめる絵本 	<ul style="list-style-type: none"> ○ストーリーが分かりやすい絵本 ○ファンタジーの世界を楽しめる絵本 ○生活体験や園生活を題材にした絵本 ○身近な自然への興味が広がる絵本 	<ul style="list-style-type: none"> ○昔話など、いろいろな感情体験ができる絵本や幼年童話 ○仲間という楽しさや連帯感、仲間の力を感じる絵本 ○ファンタジーによって物語世界を楽しめる絵本 ○科学や自然、自分の体に興味や関心をもてる絵本 ○言葉の美しさや面白さ、詩の楽しさが味わえる絵本
絵本(題名)	きんぎょがにげた おでかけのまえに おおきなかぶ めのまどあけろ かばくん どうぞのいす たろうのおでかけ てぶくろ おだんごばん じゃぐちをひねると わたしのワンピース パンヤのくまさん ぞうくんのさんぽ 三びきのやぎのがらがらどん つきのぼうや ももたろう ティッチ だるまちゃんくてんぐちゃん 100まんびきのねこ 14ひきのもちつき くれよんのくろくん はなをくんくん だろだんご からだのなかでドウンドウンドウン やさいのおなか いちご	あおくんときいろちゃん そらいろのたね きよだいなきよだいな だろんこハリー ぐるんぱのようちえん もりのなか さんまいのおふだ ちいさいおうち こすずめのぼうけん しょうぼうじどうしゃじぶた おふるだいすき いっすんぼうし おむすびころりん 3びきのくま いたずらきかんしゃちゅうちゅう かいじゅうたちのいるところ おおかみと七ひきのこやぎ ぐりとぐらのおきやくさま ラチとらいおん しんせつなともだち はじめてのおつかい たんぼぼ わたし しずくのぼうけん おおきなおおきなおいも	すてきな三にんぐみ ピーターのいす げんきなマドレーヌ かさじぞう かにむかし じごくのそうべえ だいくとおにろく 三びきのこぶた ねむりひめ あやちゃんのうまれたひ たんたのたんけん おしゃべりなたまごやき わたしとあそんで ピーターラビットのおはなし 11びきのねこふくろのなか めっきらもっきらどおんどん せんたくかあちゃん とんことり モチモチの木 スーホの白い馬 おしいれのぼうけん いのちのまつり しっぽのはたらき すみれとあり エルマーのぼうけん いやいやえん

2. 地域との交流 — 交流実践事例 —

◇ここがポイント◇

子どもたちは、地域の人たちとの交流を通して、支えあって生きていることを感じ取り、愛情や思いやりを育んでいきます。とりわけ、核家族の中で生活している子どもたちにとって、高齢者と実際にふれあう体験や小学生・中学生などとの交流は重要です。交流を通して、子どもたちが豊かな生活体験を得られるようにしましょう。

— 保育園に遊びにおいでよ —

区立保育園と近くの認証保育所とで交流をしています。認証保育所の子どもたちが、散歩の途中に区立園の園庭で遊んだり、園の行事に参加したりしています。



広い園庭にびっくり！

どうぞ、たくさん遊んでいってね。



一緒に遊ぶと
楽しいね！



《 交流のわらい 》

- ・自分の園にいない年齢の子どもたちと関わる。
- ・園庭のない園の子どもたちが、広い園庭で遊具を使い安心して遊ぶ。
- ・大きな園ならではの、環境を生かした取組に参加して経験を広げていく。

— お話 大好き —

定期的にボランティアの方が来園して「おはなし会」を開催しています。「今日は、どんなお話かな？」と子どもたちはいつも楽しみにしています。



《 わらい 》

- ・読み手である地域の方との触れ合いを楽しむ。
- ・素話を聞いて、お話の内容に夢中になったり、好奇心や想像力を膨らませたりする。

—おじいちゃん・おばあちゃん!いつもありがとう!—

保育園の上は都営住宅、目の前にはふれあい館があります。都営住宅の自治会の方々やふれあい館に来る高齢者の皆さんと定期的に交流をもっています。

～なかよし倶楽部（ふれあい館で世代間交流）～



定期的なふれあい館にお邪魔しています。「さよなら!」帰りは、ハイタッチでお別れ。輪投げも上手になって、子どももお年寄りも点数を競い合っ、夢中になって取り組んでいます。

自治会との交流



今日はおもちつき。地域の皆さんの手をお借りして経験豊かなおじいちゃんたちが大活躍。



「お茶をどうぞ」「ありがとう」
「一緒に遊んで、楽しかったね」と会話も弾みます。



《 わらい 》

- 交流を通して、地域の方と顔見知りになり、温かく見守られていることを感じる。

幼児と小学生との交流

(夏休み期間のサマーボランティア)

幼児への読み聞かせ



小学生が幼児に紙芝居を見せていた。途中で飽きてしまったのか幼児の一人が立ち上がったので、小学生が他の遊びをしようかと誘ったが、幼児は紙芝居の続きを見たいと最後まで見ることとなった。その後、保育者が小学生に他の遊びもしたいという幼児の気持ちが分かったかを聞くと、「分かった。でも、最後まで見てくれてよかった。」と嬉しそうだった。

玩具の片付けは場所が分からないので、幼児に確認しながら小学生が行った。「出しっぱなしはダメ。」と言いながら最後までやり終えた。「大変だ」という声もあったが、やり終えた満足感が見られた。

—幼児4・5歳児組と小学生がドッジボール—



交流を通して幼児に、「お兄さんみたいになりたい。」という「憧れ」の気持ちを抱いてほしいと一緒に試合を行った。小学生の強いボールを避ける幼児、傍らで「カッコいい。」と言わんばかりの表情で見とれる幼児がいた。小学生が帰った後は、小学生の姿を真似て遊んでいた。

サマーボランティア活動終了の日：小学生が寄せた声、保育者の声

朝9時から16時までの活動が終了したので、小学生に感謝状を贈呈した。小学生からは、「大変だけど面白いからまた来よう。」などの感想が聞かれた。保育者からも、この経験を通し、幼児の気持ちが高まり、「やる気」をもって行動する姿が感じとれたことから、翌年も継続するという声が多くあった。



3. 子どもの貧困・虐待予防に関する取組

区では、明日を担う子どもたちの健やかな成長、さらには明日への希望や将来の可能性をも奪いかねない、子どもの貧困・社会排除問題や児童虐待問題の解消に向け、全力を挙げて組織的に取り組んでいます。就学前教育施設や小学校には、これらの問題の「最初の防波堤」として、関係機関と連携した積極的な取組が求められています。

【子どもの貧困に関する取組】

平成22年に「子どもの貧困・社会排除問題」に関し、子どもに関わる職員等で構成されたワーキンググループを立ち上げ、子どもの貧困に関する様々な要因について、調査・研究と議論を重ねてきました。

その結果、子どもの貧困の要因は、子ども自身が原因ではなく、保護者の養育力不足や経済的不安定、複雑な家庭環境、保護者の疾病、生活環境の乱れ等であること、さらには、「貧困の連鎖」という子どもにとってはどうにもならない状況があることも分かりました。

子どもの貧困への取組として、子どもと日常的に接する場所である園や学校は、子どもの変化や保護者の問題を発見した場合、素早く各関係機関と連携を取り対応しています。そのために、各機関との連携の強化、情報の共有化に努め、区全体で子どもの命と生活を守ることを最優先としています。

また、区では平成22年度より、子どもの貧困を未然に発見、予防するため「子育て相談専門員」（元保育園園長・副園長経験者）を保育課に配置し、どんなに小さな貧困の芽であっても見逃すことのないよう主管課と現場が協力し、真剣に子どもの貧困と向き合う取組をしています。

子どもと関わる園や学校は、子どもと保護者に最も近い関係機関であることを自覚し、日頃から問題を抱える親子への支援を図り、予防的な取組に努めていかなければならないと考えます。

「子どもの貧困への予防的な取組」

- 気づき→職員のたくさんの眼の中で親子の些細な変化を誰かが見つけることができる。
不安定な様子など親子は常に行動が連動しているので、双方に注意を向ける。
- 寄り添い→保護者の悩みや問題などの相談を受けたときは、自己判断でなくその心境を理解し、相手の身になり受け止める。保護者の安心感は子どもに連動する。
- 見守り→見守りはエンドレスと捉え、親子の安心の場となるよう施設全体での受け入れ態勢を共有し、実践していく。
- 連携→問題が発生した際は状況に応じ、主管課、子ども家庭支援センター、児童相談所、警察、など各関連機関への連絡の上速やかな対応に努める。
各機関での情報を共有化し、組織的に対処することが望ましい。

【児童虐待発見のポイント】

虐待は発見されにくいものですが、子どもが何らかの SOS を出していることが多くあります。不審な外傷、発育や発達の遅れ、衛生状態の不良、表情や行動等の不自然さが子どもに現れることがあります。このサインを見逃さないようにすることが、発見の第一歩です。

○子どもの変化を見逃さない

子どもは言葉でうまく伝えられなくても必ず大人にサインを送ってきます。日頃から、子どもの様子をよく知っておきましょう。たとえばこんなケース「乳幼児、未熟児、障がい児、発達障害で育てにくさを持っている、登園、登校状態が悪い、虫歯が多い、不審な傷痕が頻繁に認められる、子どものきょうだい、また本人に虐待を受けた歴がある、表情が暗く、行動が荒れてきた」など、子どものそばにいる大人がどんなに些細な変化に対しても最初の発見者となり、速やかな対応ができるよう、毎日の見守りを心がけましょう。

○保護者の気持ちに寄り添う

保護者は親であると同時に、また自分自身の思いや悩みがあるものです。子どもをかわいいと思っても仕事や育児の疲れで気持ちが落ち着かないこともあるでしょう。そんな保護者の気持ちに寄り添いながら、保護者の悩みを受け止める姿勢を持ちましょう。そして、保護者の話を聴く時は自分自身の尺度で判断せず、まず傾聴の心も持って対応したいものです。たとえば「母子健康手帳を持っていない、妊娠の届出が遅い、予期せぬ妊娠、若年出産、乳幼児健診が未受診、又は途中から来なくなった、予防接種を受けていない、又は極端に少ない、子どもへの愛着形成が十分でない、マタニティーブルーや産後うつ、精神障害やアルコール依存や薬物依存、多胎児を含む複数人の子どもがいる、被虐待体験、育児に対する不安やストレス」など、保護者と子どもの行動は連動していることが多く、双方をしっかり見守ることが虐待予防や発見の第一歩になるのです。

○家庭環境に気を配り見守る

子どもには何があっても安全で安心できる家庭環境の中で過ごすことが一番です。しかし、最近では社会生活の変化などでうまくいかないことが増えているようです。たとえば「単身家庭、内縁者や同居人がいる、子どもと血縁関係にない人間関係に問題を抱えている、転居を繰り返す、不衛生な居住環境、親族や地域社会から孤立している、経済的に不安定である、夫婦不和や DV 等家庭内に葛藤がある」など、本来子どもが安らげるはずの家庭が、子どもにとって住みにくい場所となっては子どもの心の温かいものも育ちにくくなります。子どもが通う園や学校、地域の大人が子どもの家庭に気を配り、見守りや通報など具体的な行動をとることが必要です。

○子どもに不審な痣、傷などがあった場合、保護者等から経過を聞くなど、職務として自然にできることで対応することが支援の第一歩です。

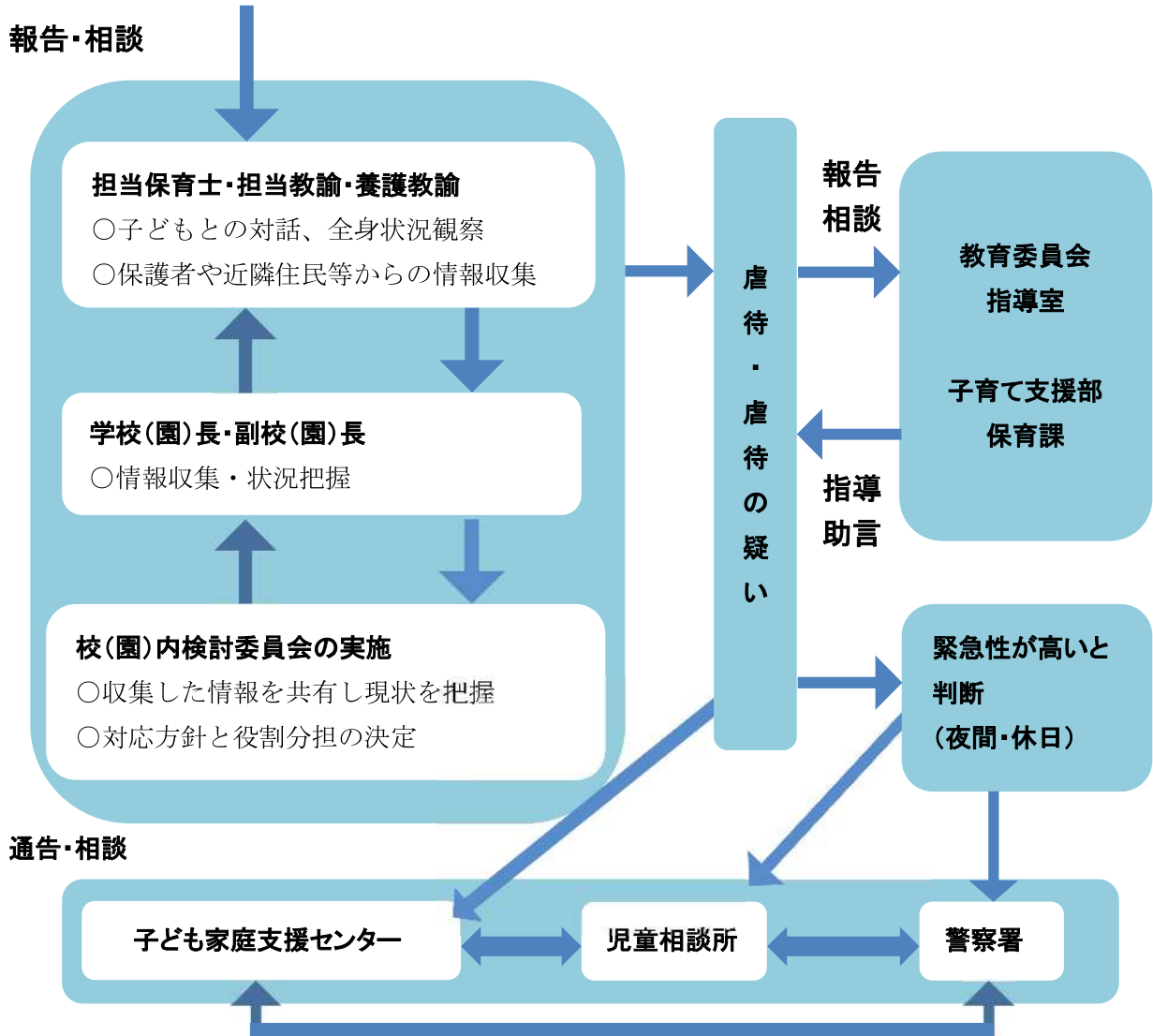
○園や学校の教職員は児童虐待の早期発見に関して、努力義務があります。

また、虐待を受けたと思われる児童を発見した場合は、通告義務があります。

【虐待対応のフローチャート】

虐待の発見・疑い

- 日常的な関わりと「子ども虐待リスクチェックリスト」の活用
- 本人、職員、他の保護者、近隣住民等からの情報を収集



主な子どもに関する相談窓口

○子ども家庭支援センター	3 8 0 5 - 5 5 2 3
○北児童相談所	3 9 1 3 - 5 4 2 1
○荒川警察署	3 8 0 1 - 0 1 1 0
○南千住警察署	3 8 0 5 - 0 1 1 0
○尾久警察署	3 8 1 0 - 0 1 1 0
○東京都児童相談センター	5 9 3 7 - 2 3 3 0
○児童相談所全国共通ダイヤル	1 8 9 (いちはやく)

(「荒川区虐待防止・対応マニュアル」・「子どもの貧困・社会排除問題 研究プロジェクト最終報告書参照)

荒川区就学前教育プログラム検討会 名簿

役職・部会	氏名	所属
監修アドバイザー	師岡 章	白梅学園大学子ども学部教授
乳児グループ	浪越 美奈子	至誠会第二保育園長
	小島 洋子	小台橋保育園長
	瀬川 章子	認証保育所キッズガーデン保育園長
	信坂 雅子	荒川保育園長・平成26年度 区立保育園長会幹事
	濱邊 公恵	三河島保育園長
	大駒 千恵子	第二東日暮里保育園長(平成26年度 町屋保育園長)
幼児グループ	千田 公隆	真成幼稚園長・私立幼稚園長会会長
	上田 寛子	道灌山幼稚園長・私立幼稚園長会副会長
	桑原 淳子	南千住第二幼稚園長・区立幼稚園長会会長
	瀬端 良江	町屋幼稚園副園長
	村上 たか子	汐入とちのき保育園長
	渡辺 弘毅	上智厚生館保育園長
	佐々木 眞理子	東日暮里保育園長(平成26年度 さつき保育園長)
	庭山 宜子	第二南千住保育園長(平成26年度 ひぐらし保育園長)
	原田 正伸	指導室指導主事
	佐藤 陽子	指導室指導主事(平成26年度のみ)
保・幼・小連携グループ	飯村 誠一	尾久小学校長
	田郷岡 美佐江	第七峡田小学校長・町屋幼稚園長
	柳原 ふき子	北豊島幼稚園副園長
	山本 真理恵	汐入こども園長
	小西 睦子	夕やけこやけ保育園長・私立保育園長会会長
	浅野 純子	保育課保育指導係長(平成26年度 第二南千住保育園長)
	山崎 亜矢子	東尾久保育園長(平成26年度 西日暮里保育園副園長)
	保坂 美加子	指導室指導主事
門田 陽子	尾久第六小学校長・尾久第二幼稚園長(平成26年度のみ)	

イラスト 中嶋 里美(第二南千住保育園)

中嶋 孝子(原保育園)

【事務局】

上田 望(保育課長)

釜井とみ江(保育課保育指導係)

小山 勉(指導室長)

小野崎佳代(保育課保育指導係)

参考文献・資料

- 保育所保育指針解説書（平成20年4月 厚生労働省）
幼稚園教育要領解説（平成20年10月 文部科学省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成27年2月 内閣府・文部科学省・厚生労働省）
小学校学習指導要領（平成20年3月 文部科学省）
幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続のあり方について（報告）
（平成22年 文部科学省幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方に関する調査研究者会議）
就学前教育カリキュラム（平成23年3月 東京都教育委員会）
就学前教育カリキュラム活用ハンドブック（平成25年3月 東京都教育委員会）
就学前教育プログラム—就学前教育と小学校教育との円滑な接続のための保育所、幼稚園と小学校との
連携の方策—（平成22年3月 東京都教育委員会）
荒川区子ども読書活動推進計画（第二次）（平成23年 荒川区教育委員会）
荒川区学校図書館活用指針（平成26年 荒川区教育委員会）
荒川区虐待防止・対応マニュアル（平成26年3月 荒川区子ども家庭支援センター）
子どもの貧困・社会排除問題 研究プロジェクト最終報告書（平成23年8月 荒川区自治総合研究所）
- 保育カリキュラム総論（師岡章著 同文書院）
発達がわかれば子どもが見える（乳幼児保育研究会 ぎょうせい）
0歳～6歳心の育ちと対話する保育の本（加藤繁美著 学研）
育ちの理解と指導計画（今井和子著 小学館）
乳児の発達と保育（園と家庭を結ぶ「げんき」編集部編 エイデル研究所）
保幼小連携—育ち合うコミュニティづくりの挑戦（秋田喜代美・第一日野グループ編著 ぎょうせい）
保育と絵本—発達のみちすじにそった絵本の選び方（瀧 薫著 エイデル研究所）
子どもの貧困—日本の不公平を考える（阿部 彩著 岩波新書）
- 足立っ子すくすくガイド—学びの基礎力を培う乳幼児期を充実したものとするために—
（平成21年11月 足立区・足立区教育委員会）
保育園・幼稚園と小学校をつなぐ乳幼児教育 新訂版のびのび育つしながわっこ
（平成27年3月 品川区）
渋谷区幼児教育プログラム（平成23年3月 渋谷区幼児教育プログラム作成委員会）
千代田区の子どもたちのための就学前プログラム 子どもたちの健やかな成長と小学校への円滑な
接続を保障するために（平成25年 千代田区教育委員会）
台東区幼児教育共通カリキュラム 小さな芽増補版（平成24年1月 台東区教育委員会）
杉並区幼保小接続期カリキュラム・連携プログラム ぐんぐん伸びるすぎなみの子
（平成26年2月 杉並区教育委員会）
つるおか保育ガイドブック（鶴岡市保育園研修協議会）
保幼小連携接続カリキュラム（平成24年 佐世保市）



荒川区就学前教育プログラム

わくわく えがお 荒川の子

平成30年7月

編集・発行 荒川区子育て支援部保育課

〒116-8501

東京都荒川区荒川二丁目2番3号

電話 03-3802-3111

子育て支援部保育課 内線3823

教育委員会事務局指導室 内線3386

登録(27)0103号-増1